

翻刻飛脚関係摺物史料（一）

藤 村 潤 一 郎

飛脚関係の史料の内に摺物になっているものがある。これは飛脚問屋が顧客に配布した事を意味している。この摺物は古書店の目録によると相当な高値であるが、私は飛脚史料の調査に際して摺物史料を、多くの所蔵者、機関のご好意により閲覧する事ができた。

本稿は各所蔵者・機関の許可を得て従来気付いたものを収録した。この他にも多数存在すると考えられるので、今後調査を続けたい。本号には後述する目次で一―三七を収録し、三八以下は次号に掲載する予定である。

一

最初に書誌的な事項について記す。

名古屋市青木家所蔵文書

一 尾張国宮宿貝谷権左衛門、小嶋権兵衛飛脚賃銀定は、青木信樹氏がご恵与下さったコピーによった。原本は表紙が付されており、表紙には「飛脚賃銀覚」、裏表紙には「大舟丁／知多新店」と墨書されている。渡辺則文氏のご教示によると青木家は旧塩問屋で屋号知多屋、代々新四郎を名乗っているとの事であり、現在は名エン株式会社

である。なお関連史料としては四月二十七日付、小嶋権兵衛「大坂出火」が小野秀雄「かわら版物語」二二八頁に掲載されており、後記する三六もそうである。

三井文庫所蔵文書

二 定飛脚問屋東海道大地震ニ付当分飛脚賃之覚は堅三〇九×横約四二八ミリ（以下堅横ミリを略す）で、請求番号別1902-6「（東海道大地震ニ付当分飛脚賃之覚）」である。この別1902は三井の大坂両替店のもの。

三 定飛脚問屋京都大坂^江正六日限之日割歩行持幸便賃銀付は二四六×約一七〇で、請求番号別1902-2「京都大坂^江正六日限之日割行持幸便賃銀付」である。

四 定飛脚問屋京都大坂^江正六日限之日割歩行持幸便賃銀付は三〇七×約二五七で、請求番号は三と同じである。

五 定飛脚問屋当分御弁利京都大坂迄十五六日目着定日便飛脚賃は三〇八×約四四〇で、請求番号別1902-7「当分御弁利京都大坂迄十五六日目着定日便飛脚賃銀付」である。

六 江戸飛脚仲間東海道筋大地震ニ付当分飛脚賃之覚は三〇七×約五五二で、請求番号別1902-4「東海道筋大地震ニ付当分飛脚賃之覚」である。

七 江戸飛脚仲間当分飛脚賃之覚は、二七九×約四〇八で請求番号は別1902-3「当分飛脚賃之覚」である。

八 江戸出火は二三五×六〇で、請求番号別655-3「（江戸飛脚屋知ラセ）」で、大坂三井組のものである。

九 江戸出火は二三一×三二一で請求番号は八と同一である。

一〇 江戸出火は二三七×八五で、請求番号は八と同じ。

小野秀雄「かわら版物語」には文久二年の二月二十六日付、元治元年の三月十八日付の江戸出火が掲載されており、「江戸／定飛脚仲間／三度」「大坂船越町／江戸飛脚問屋／尾張屋惣右衛門」の印が捺されている。また同書二

一九一二頁には小野氏所蔵二五通のリストがある。

一一 江戸定飛脚問屋仲間御上洛・付飛脚荷物延着断書は二五〇×約三三六で、請求番号は別2260-5〔御上洛・付飛脚荷物延着断り書〕である。別2260は大坂兩替店のものである。

一二 江戸定飛脚仲間請負・付口上書は二五〇×約二六四で、請求番号は別695-7〔江戸飛脚口上書〕である。これは大坂三井組のものである。

一三 江戸定飛脚仲間賃銀書は二三七×約一六八で、表紙共六丁、請求番号は別2260-3〔賃銀書〕である。

一四 江戸定飛脚仲間賃金値増・付口上書は二四八×約三三二で、請求番号は別2260-6〔飛脚賃銀値増・付口上書〕である。

一五 江戸定飛脚仲間飛脚賃値増・付口上書は二五〇×約三四八で、請求番号は一四と同じである。以上の二―五は大坂の三度飛脚関係のものである。

一六 三道陸走会社賃銀附は三〇七×四二九で、請求番号はD510-9〔三道陸走会社賃銀附〕である。末尾の瀬戸物町は明治二年には嶋屋佐右衛門の店の事である（日本通運株式会社「社史」一二二頁）。

一七 定飛脚問屋会社賃銀附は三〇三×四五一で、請求番号はD540-28〔道中賃銀附〕である。

一八 大坂屋茂兵衛他東海道、伊勢参宮道、中山道、善光寺道・飛脚差立日は三一〇×二三四で請求番号はD540-3〔道中飛脚賃銀・差立日附〕である。本史料には字が少なくて読めない箇所がある。なお大坂屋茂兵衛は嘉永四年十月付、定飛脚問屋「議定連印帳」（三井高陽氏所蔵文書）には見られない。嘉永五年の「諸問屋再興調三」の定飛脚問屋の頃も同様である（東京大学史料編纂所編纂「大日本近世史料 諸問屋再興調三」三八―一四〇一頁）。

つぎに三井文庫所蔵、兩替店「文政十年亥正月ヨリ弘化貳年十二月、四、永要録」には、天保十四年六月五日大

坂無番状々申来るとして「右元代銀サシカメ相済候迄、無故障致相續候得者重疊之儀ニ候へ共、若大坂屋茂兵衛方之様成儀出来候時者」とある。つぎに「御番衆定飛脚監脇 八ノ冊」によると天保十二年三月には存在している（児玉幸多校訂「近世交通史料集」七巻六〇〇頁）から、天保十三年前後迄大坂屋は存在したのではあるまいか。また「定飛脚発端旧記 一ノ冊」には大坂屋が寛保二年二月に休業、延享三年御免開業とある（同上）四八一頁）。なお大坂屋茂兵衛については伊東弥之助「杉本茂十郎の研究」三田学会雑誌四七巻九・一〇号がある。

一九 江戸順番定飛脚中貨増願書は三〇八×四六一で、請求番号はD540-40（江戸順番定飛脚値段書）である。

二〇 江戸順番定飛脚問屋越後屋、奈良物屋賃銭^井出日書は二四六×三三六で、請求番号はD540-36「賃銭定井出日書」である。越後屋孫兵衛と三井の關係については、三井文庫編「三井事業史」本篇一卷三七〇—一頁を参照のこと。

二一 大阪両替手形便覧、今飛脚組合は三三七×六〇九で、請求番号はD654-46「大阪両替手形便覧」である。これと同じもので、文化六年版の影印と翻刻が黒羽兵治郎編「大阪商業史料集成」五輯二四三—五八頁にある。なお「同書」二五九—七七頁には「大坂両替手形案内記」と「大阪両替屋所附」があり、前者には今飛脚組合、後者には諸国毎日飛脚出所がある。

二二 今米飛脚出所、大阪両替屋独案内は三五四×四七九で、請求番号はD654-51「大阪両替屋独案内」である。本史料に破損はないが、版木に墨がなじまぬ内に摺られたらしく、判読困難な箇所がある。

通信博物館所蔵文書

二三 足利小松屋注助口演書は二四〇×三〇一である。

二四 定飛脚江戸屋仁三郎御年玉早見年代記書袋は一六一×七七である。なお飛脚問屋は各種の御年玉を配布したらしい。東海道順路図（榎畑雪湖監修「五駅便覧」日本交通史料集成一輯口絵）は中央に富士山の構図であるが、

その左下隅に「諸国定飛脚所 江戸日本橋佐内町 和泉屋甚兵衛 京大坂其外道中筋御城下宿、取次所有之候」とある。なおこの図は樋畑雪湖「江戸時代の交通文化」の見返にも使用されている。なお同書三九頁には文政十三年七月改、江戸定飛脚所「江戸三度飛脚出日定」が掲載されている。尾張屋惣右衛門、京屋弥兵衛のものである。

また前記の東海道順路図と若干構図の異なるものの一部が遠藤武・蘭部澄「日本の民具」一卷に32江戸より京大阪高野山への道中図として収載されており、図の左下隅に

諸国定飛脚所

日本橋佐内町

江戸 和泉屋甚兵衛

烏丸通姉ヶ小路上

京 江戸出店 和泉屋甚三郎

大手筋錦町一丁目

大坂 天満屋弥左エ門

梶木町

大坂 天満屋吉左エ門

堂島中二丁目

大坂 尾張屋七兵衛

内平野町二丁目

大坂 尾張屋吉兵衛

右之外諸国道中筋御城下宿、取次所有之候

とあり、図は日本実業史博物館所蔵である。これと同じものの全図がカラーで増田太次郎「引札繪びら錦繪廣告」一二頁に、飛脚地図として掲載されている。諸国定飛脚所の部分の文字に若干不鮮明な箇所がみられる。これにより和泉屋の相仕関係がわかるが、「五駅便覧」に収載された図との前後関係は不明である。

なお定飛脚以外では、糸諸方飛脚出所、尼崎屋太助の嘉永七甲寅略暦が広田芳久「続飛脚状私考」切手文化四九卷三号一八頁に掲載されている。

慶応義塾図書館所蔵文書

二五、二六は野村近世資料で、同館長、経済学部教授であった野村兼太郎氏が収集したものである。

二五 堂嶋車屋源右衛門兵庫灘西国筋泉州筋飛脚休日録は二四八×三四二である。

二六 堂嶋米市場堺屋喜平治西国筋毎日早飛脚出付願書は二三七×三三二である。

つぎの二七は文学部教授であった幸田成友氏旧蔵のものである。

二七 定飛脚問屋六軒仲間仕法帳は二六八×一八四であり、表紙には右側に「文化十三丙子年 岡金平所持」、左下に「大坂や茂兵衛」と墨書があり、本文末尾の定飛脚問屋六軒仲間の右に「日本橋西河岸町／大坂屋／茂兵衛」と墨書がある。なお請求番号は215-1441-1である。

この二七仕法帳と後述する三八仕法帳のみで速断はできないが、定飛脚問屋仲間では京屋弥兵衛は二七を、大坂屋茂兵衛は二八の仕法帳を頒布したのだろう。他の問屋はこの二種類の何れかを頒布したか。これら以外の仕法帳が作成されたかは今後研究しなければならない。

この仕法帳について、「駅肝録」に（定飛脚問屋賃銀板行之儀、付一件）として

差上申一札之事

私共仲々間取締方ニ付、飛脚賃等取極、板行摺ニ仕、御出入御武家様方、町方得意之向へ相配り度段、案文取調差上奉願候處、再応御糺之上、賃銀極其外不相當之儀モ無之候間、願之通板行摺御聞届被遊候、依之案文之通念入無相違板行ニ仕立、御出入御屋敷方并町方得意之もの江勝手次第相配り、以来猥ニ不相成様可致段被仰渡、一同承知奉畏候、仍御受証文差上申處如件

定飛脚問屋

文化三寅三月廿九日 萬町

又七店

大坂屋

茂兵衛印

右茂兵衛方同店

伏見屋

五郎兵衛煩ニ付召仕

千藏印

佐内町

五郎兵衛店

和泉屋

甚兵衛印

室町式丁目

権八店

京屋弥兵衛頼_ニ付代召仕

善次郎印

瀬戸物町

市郎兵衛店

嶋屋佐右衛門大坂住宅_ニ付

店預り人

友 七印

右佐右衛門方同居

山田屋八右衛門幼年_ニ付代召仕

清 六印

道中御奉行所

とある。(穂畑雪湖監修「日本交通史料集成」二輯二二―四頁)

北九州市立歴史博物館所蔵豊前國小倉中原文書

二八 江戸定飛脚仲間東海道筋御仕立賃銀増願口上書は二七三×三九三で、「慶応二年東海道筋御仕立賃銀増額願」と端裏に墨書がある。

二九 江戸出火は二四九×一六六である。

三〇 江戸出火は二四九×一七二である。

日本通運株式会社資料室所蔵文書

三二 定飛脚問屋嶋屋佐右衛門箱館定飛脚賃附は約六〇×二五〇である。嶋屋の箱館出店は文久元年である（柳沢善吉「史料による箱館の株仲間問屋・小宿」七一―五頁、「江戸表馬便差立方貨銀之儀・付伺書」神宮司庁蔵版「古事類苑」政治部四、一三四―一五〇頁）から、同年以後のものである。余談になるが、カール・クロウ、田坂長次郎訳「ハリス伝」（平凡社東洋文庫61―一七四―一五頁）によると、一八五七年七月（安政四年六月）に下田のハリスは「陸路箱館へ手紙をおくる計画をたてはじめた。箱館へおくれば、そこでアメリカの捕鯨船へ託することができるともされない。下田、箱館間の距離は六百マイルにみたないが、通送事業がきわめて幼稚なため、一通の手紙をおくるにも三十五日もかかる。日本人はてっきり手紙を開封して読むと思つて、非常に慎重に手紙をしたためた」とある。出雲国松江、原家文書

同文書については、原文助「家業五代記」がある。近世には白濁三度飛脚であり、明治期には陸運元会社、内国通運松江分社であった。同文書は松江市殿町の松江郷土館に寄託されている。

三二 東国定飛脚問屋会所貨銀等口上書は原文助「前掲書」口絵に掲載されている。同書四一―三頁参照。

三三 大阪諸国陸運元会社、松江諸国陸運会社、大阪松江間物貨通送賃銭表は原文助「前掲書」五六頁参照。

奈良県桜井市船谷家文書

三四 南都組合飛脚中荷物賃銭・付口上書は二四三×三二九である。通信博物館調査によるコピーからの翻刻である。

大阪市立大学附属図書館所蔵文書

三五 堂嶋柏屋藤松令兵庫灘西国筋泉播州米飛脚出所は二四・二×三二・四であり、請求番号332.1-K36-1「(西国筋兵庫灘泉播州)米飛脚出所」である。須々木庄平「堂島米市場史」四六六―七頁に米飛脚営業案内として掲載されているものによった。

大阪市藪内家文書

三六 三度飛脚所尾州宮宿貝谷権左衛門江戸井道中筋早飛脚出日は一二八×一七八である。藪内吉彦「日本郵便創業史」四一頁に掲載されている。なお金井スタンブ商会「1974年新春パブリック・オークションセル第100回記念オークション・セル目録」二四頁にも掲載されているので藪内氏が収集したものである。丙辰年が、寛政八年か安政三年かは確認していない。

三原市立図書館所蔵備後国御調郡三原西町川口家文書

三七 大阪月六度定飛脚所は約二四一×一六四である。同館ご好意のコピーによった。なお広島県編「広島県史」近世2七〇四頁に図二一八「大阪月六度定飛脚のちら紙」として掲載されている。「同書」四九六頁によると川口家は近世初頭以来の門閥町人である。川口家については文政二年完成、青木充延、充実編「三原志稿」巻之五(三原市役所編「三原市史」四巻資料編一 一一六―二〇頁)、文政八年序「芸藩通志」巻十二(「芸藩通志(複製版)」一巻一七二頁)、藤原覚一「ある図書館の戦後史」一一四―一三三頁を参照。

日本実業史博物館旧蔵国立史料館所蔵文書は、渋沢敬三氏が収集したものであり、「史料館所蔵史料目録」一一集を参照されたい。

三八 定飛脚問屋六軒仲間仕法帳は二三〇×一六四、表紙共一三丁である。

この「仕法帳」と同じものが三井文庫と慶応義塾図書館に所蔵されている。前者は請求番号1574-3であり、後者

は請求番号211-3である。この両本には共に表紙に「京屋弥兵衛」と墨書があり、本文末尾の定飛脚問屋六軒仲間の下には「六間／定飛脚問屋／仲間」の丸印が捺されている。なお前述の二七仕法帳の項を参照されたい。

三九 定飛脚問屋和泉屋甚兵衛他東海道行程、定飛脚出日は三三三×四五二である。整理番号は日本実業史博物館旧蔵資料、番付の部八五「(東海道行程・定飛脚出日)」。

四〇 定飛脚所嶋屋佐右衛門東海道木曾路筋扣抄は一八四×一二四六で、一八四×四四の表紙があり、茶色で内菊亀甲繋ぎの押型がある。表紙から横二四二ミリ分は全文、以下は抄録した。全文部分と抄録部分の文字が若干相違しているようである。

次に慶応義塾図書館所蔵「東海道木曾路両面道中記大成」(請求番号121-167-1)は一八六×一〇九二で、一八六×六二の栗皮色空押卍字繋ぎの模様の表紙がついている。表紙中央上部に一二九×二二の題簽があり「御道中記／定飛脚問屋／嶋屋佐右衛門」と記るされている。御道中記は大きく上部に、定飛脚問屋は小さく下部右上に、嶋屋佐右衛門はこれよりは大きく下部左下に、両者若干重なるように書かれている。本文は前記抄録分と一致する。

さらに通信博物館所蔵「東海道木曾路両面道中記大成」(整理番号SB-A144)は一八二×一二〇六で、一八二×六一の表紙があり、朽葉色である。表紙中央上部に一一五×二四の題簽がある。薄水色であるが文字は磨滅して判読できない。本文は前記慶応義塾図書館蔵本と大略同一であるが、本文中に横浜関係記事がみられ、劈頭梓外に「東海道当時すべて十五割ましに相成候」とある。木版は新しく彫っているようである。なおこれと同性格の前欠本(整理番号SB-A167)の表紙は焦茶色である。

以上の事からすれば、これは文政五年に製本を改めた際に表紙と本文の間に、他のものを貼付けた可能性がある。それが何によっているかは不明であるが、少なくとも文政五年の嶋屋を示す史料と解釈してもよいと思う。

四一 定飛脚京屋弥兵衛年玉両面道中記抄は二九八×四〇一で、整理番号は日本実業史博物館旧蔵資料の内、番付の部七九「年玉両面道中記」である。翻刻の(1)は二三九×五六、(2)は一四七×五六の枠に、(3)は枠外に記るされたものである。

四二 定飛脚京屋、山田屋年玉両面道中記抄は三〇〇×四〇二で、整理番号は日本実業史博物館旧蔵資料の内、番付の部八〇「年玉両面道中記」である。翻刻の(1)は一四三×五四、(2)は一三七×六四、(3)は枠外、(4)は七〇×八の枠内に記るされている。京屋弥兵衛と山田屋八左衛門との関係は「甲府之儀御尋幸国々繩張 六ノ冊」(児玉幸多校訂「近世交通史料集」七巻五五九頁)によると、山田八左衛門名義株は文政十年四月に嶋屋の持株から和泉屋、京屋、大坂屋三軒に譲替になり、天保九年に京屋が引請けて一手持同居になっている。この道中記の場合には、四一は天保九年以前、四二は天保九年以後の可能性がある。

四三 諸国定飛脚問屋和泉屋甚兵衛御年玉道中記書袋は一六七×一一七である。

四四 東京大阪廻漕蒸気船廻漕会社運賃定書は三〇九×四六四である。廻漕会社については伊東弥之助「蒸気飛脚船奇捷丸の就航―近代海運業の生成過程―」交通史研究 一一号三一―二頁参照のこと。

四五 定飛脚会社改正賃銀附は一六五×四七五である。

四六 陸運元会社各地諸物貨運送賃銭表は三〇四×四五八である。飛脚問屋の後身である。なお以上三八―四六は江戸の定飛脚問屋関係のものである。

四七 江戸三度定飛脚問屋仲間御上洛・付飛脚荷物延着之義断書は二五〇×三四八であり、將軍家茂の上洛に際してのものである。

四八 江戸定飛脚仲間御上洛・付飛脚馬荷差立方体口上書は二四九×一〇七である。

四九 江戸定飛脚仲間在来通飛脚差立方口上書は二五〇×七九である。

五〇 江戸定飛脚仲間当分請負・付口上書は二四八×一七三である。

五一 江戸定飛脚仲間別便六日限請負口上書は二四九×一六八である。以上四七一五四は文久三年御上洛関係である。

五二 江戸三度定飛脚問屋仲間大地震・付口上書は二五一×三四八である。

五三 江戸三度定飛脚問屋仲間東海道地震以来之所、飛脚都元向差立方・付口上書は二五三×一七三である。これと同じものが広田芳久「続飛脚状私考」切手文化四九卷三号（通卷二八九号）一八頁に第一〇図として掲載されている。

五四 江戸屋平右衛門江戸大地震御知書は二四一×一七一で、これと同じものが小野秀雄「かわら版物語」一八三頁に掲載されている。なお同頁には卯十月九日付、江戸屋平右衛門の江戸大地震も収録されている。

また同書には嘉永七年十一月四日の大地震について、月日付、和泉屋甚兵衛の十一月四日東海道筋大地震所々出火怪我大損之場所（二七二頁）、嘉永七寅年、嶋屋佐右衛門の東海道筋並上方筋大津浪大地震之事（二七二頁）、山田一志町定飛脚本屋勘兵衛の東海道筋諸方大地震津波記（一七二頁）が掲載されている。

なお安永二年正月跋、軽口耳拔「口指子」に、飛脚として

辰の二月、江戸から大火事^{おいくわし}の飛脚。また西国^{さいごく}すじから大水のうったへ。飛脚とく、はこね山ではたと行合^{ゆまやいりあひ}、両方とも、デウ

とある（武藤禎夫編「噺本大系」九卷一二三頁）。飛脚が災害の通知に当るのが普通だったろう。

五五 江戸定飛脚仲間賃銀付は一二九×七四三で、前欠のものと考えられる。

五六 江戸飛脚仲間当分飛脚賃之覚は二八四×四一一である。

五七 江戸三度定飛脚中御用向暮六ツ時迄ニ仰付願書は二七二×四〇五である。

五八 江戸定飛脚仲間賃銀割増口上書は二五一×三四六である。

五九 江戸三度定飛脚仲間七ツ半時飛脚差立ニ付口上書は二四六×一一二である。

六〇 江戸三度定飛脚仲間在来之外休日は二四七×一一五である。

六一 江戸定飛脚問屋中駿遠州路大路ニ付知書は二五一×二四六である。

六二 国々地震聞書は一七二×二四七である。以上四七七一六二は一部に大阪の京飛脚仲間の可能性もあるが、大坂の三度飛脚のものと考えられる。

六三 三度定飛脚尾張屋吉兵衛、和泉屋甚兵衛江戸飛脚出日定は二七四×三九七であり、整理番号は日本実業史博物館旧蔵資料のうち番付の部八二「江戸飛脚出日定」。尾張屋と和泉屋が相仕である事を示している。

これと類似のものとしては、㊦定飛脚問屋、大阪安土町堺筋江戸屋久右衛門、東京日本橋佐内町和泉屋甚兵衛の東国表道中筋定飛脚出日附が、広田芳久「統飛脚状私考」切手文化四九卷三号一九頁に掲載されている。

六四 定飛脚問屋大黒屋庄治郎東京三度定飛脚出日は三〇八×四五五で、整理番号は日本実業史博物館旧蔵資料の内、番付の部八四「東京三度定飛脚出日」である。京都の大黒屋と大坂の津国屋、東京の嶋屋が相仕である事を示している。

六五 東京第一定飛脚会社東国筋飛脚出日附は三一〇×四三四である。末尾の烏丸通姉小路上ル町は、慶応三丁卯夏改正「^{慶応}改正花洛羽津根大全」卷三（京都大学附属図書館蔵）によると、諸国飛脚之部の江戸順番仲間に「烏丸姉小路上 和泉屋甚三郎」とある。整理番号は日本実業史博物館旧蔵資料の内、番付の部八三「東国筋飛脚出日付」で

ある。

六六 京飛脚仲間御上落_ニ付為登諸便休口上書は二五〇×八五で、四二×一二四の下ケ札が付いている。なお京飛脚関係としては三井文庫所蔵、文久四年、京屋清右衛門「京飛脚年中定」(請求番号D534-27)があり、史料館研究紀要一一号二一四―五頁に翻刻した。なお余談であるが、寛政七年正月序「当世痴人伝」巻之三の金太郎の項に「京飛脚屋のぼせ病、長崎問屋_どのくだり腹までいづれしかるところより病もをこりぬ」とあり、「浪華粹人伝」上方藝文叢刊10八四頁)、京飛脚屋に登は、直ちに大坂から京都への為登が連想される存在であつたらう。

六七 諸国早飛脚出所、大阪両替手形便覧は五三二×四七六である。

六八 西国筋早飛脚所堂嶋堺屋兵庫灘西国筋米飛脚出所年中休日定井出刻は二四六×三四〇である。

六九 伏見通日雇頭仲間名印鑑は三三二×三七二で、書袋は一六〇×八二である。右端に再興年月の文言、次に表題、印があり、その左に四段一〇行の表がある。なお通日雇仲間名印鑑は、嘉永六年「江戸六組飛脚屋仲間」が日本実業史博物館旧蔵国立史料館所蔵、安政元年「同上」が通信博物館所蔵(整理番号SJ-A2)、万延元年「同上」(整理番号SJ-A3)、嘉永七年「大阪両通日雇仲間名印鑑」(SJ-E15)があり、史料館研究紀要七号六三一―一〇四頁に翻刻した。

国立史料館所蔵出羽国村山郡山家村山口家文書については「史料館所蔵史料目録」七集を参照。

七〇 定飛脚所嶋屋佐右衛門諸国飛脚差立定日は一五二×二二五で、文書記号28D、整理番号3197「諸国飛脚差立定日」である。

国立史料館所蔵武蔵国幡羅郡下奈良村吉田家文書については「史料館所蔵史料目録」一〇集を参照。

七一 定飛脚嶋屋佐右衛門諸国飛脚差立定日は一五五×二四七で、文書記号26R、整理番号29「町屋鋪沽券証写

井地代店賃上り高之内ニ町入用公役銀七分積金家守給家守店引之金地主手取金書上写、天保十三年のものである。本史料と次の七二とは、この簿冊の表紙、裏表紙の見返に貼付けてある。

七二 定飛脚京屋、山田屋飛脚差立定日は一四二×二二六で、請求番号は七一と同一。

二

明治十四年、青江秀編次「大日本帝國駅通志稿考証」三三九―四〇頁に、文化年中印行米飛脚直段付により文化三年に「島屋佐右衛門西国筋米飛脚ヲ開ク」として

○是年大坂北濱町丁目島屋佐右衛門西国筋米飛脚ヲ創業シ毎月十度ノ並便ヲ發ス其各地賃錢左ノ如シ播州明石銀三分、同姫路銀五分、同高砂銀五分、同赤穂銀五分、備前岡山銀六分、全岡西大寺銀六分、伯州米子銀貳匁、作州津山銀貳匁五分、雲州松江銀五匁、板倉宮内銀壹匁、庭瀬倉敷銀壹匁五分、玉島笠岡銀壹匁五分、備後福山銀貳匁、讃州金毗羅銀三匁五分、同高松銀貳匁、尾道三原銀壹匁五分、芸州広島銀貳匁、薩州鹿児島銀十匁、肥前長崎銀三匁、壹岐對馬銀六匁五分、芸州宮島銀貳匁五分、防州若國銀貳匁、同山口銀壹匁五分、同三田尻銀壹匁五分、長州萩銀貳匁、同下ノ関銀壹匁五分、豊前小倉銀壹匁五分、同中津銀三匁、筑前福岡銀三匁、同博多銀三匁、筑後久留米銀四匁五分、同柳川銀四匁、肥前佐賀銀三匁、肥後熊本銀四匁五分ナリ右書狀ハ量目拾文目ヲ限ル以上過量ハ皆前條ノ割合ニ從ヒ其實銀ヲ収ムヘシ若其各地支道ニ入モノハ每匁里銀六分ヲ増ス其他臨時日限通送書狀時廻シ書狀仕立飛脚等何時ニ限ラス之ヲ發行スヘシ但金銀通送及先拂賃錢書狀ノ通送ヲ為サス又荷物飛脚ノ定日ハ毎月朔日、六日、十一日、十六日、廿一日、廿六日、ノ六回ト定メ其量目壹匁目備前ハ賃銀三匁五分、備中ハ五匁、備中ハ五匁、備前ハ七匁、ト為ス

とある。これは一枚摺によつたものではあるまいか。「大日本帝国駅進志稿考証」が米飛脚を創業としている点に疑問がある。津川正幸氏によると、「西宮市史」二巻六三四―五頁、「天明年間に大阪通路相庭飛脚として堂島の相場を報ずることを業としていたとおもわれる業者の一人として、浜鞍掛町に松本屋平八という人がいたことがしられる」とある。この西宮の松本屋の相仕が堂嶋にいた筈であるし、米市場が米飛脚を伴わないとは考え難い。従つて文化三年嶋屋の米飛脚創業説には考証の余地がある。嶋屋が同年から従事したとも解釈できるが、私は考証の余地があると思う。

つぎに既に翻刻されたものを紹介すると、金子一郎氏による次の仕事がある。

1 江戸六組日雇頭仲間印鑑帳 寛政元年（「私の郵趣文献59―61」切手趣味九五巻四―六号）

2 諸州国々飛脚便宜鑑（「同右62」切手趣味九六巻一号）

後者は金子氏の御好意により私が「史料館報」二六号に翻刻した事があり、天保初年と推定した。

この他に出口神曉氏蔵、ぞうりや「近在諸方町飛脚」が、藪内吉彦「日本郵便創業史」四五頁に掲載されている。

また岡崎宿飛脚所服部専左衛門の飛脚通日と定飛脚所樋口与次右衛門の定飛脚通日が、新編岡崎市史編集委員会編「新編岡崎市史」史料近世上7四〇七―八頁に翻刻されている。

三

翻刻に当つては、本来ならば影印か略図で全容を示すべきであるが、（ ）を附して一部の枠の所在を示し、文字は大略九ポイント活字に統一した。また平出、抬頭、欠字はそのままとし、変態仮名は現行の字体に改め、古体、異体、略体の文字は現行の文字に改めたものが少なくない。全文に亘り原本にない句読点を補った。

追記 本稿の作製に当って、三井文庫、通信博物館、慶応義塾大学三田情報センター、北九州市立歴史博物館、日本通運株式会社資料室、大阪市立大学附属図書館、三原市立図書館、国立史料館と青木信樹、原佳江、船谷佐智子、藪内吉彦の各氏は所蔵史料の利用を許可された。また黒羽兵治郎、野村君代、田中康雄、嶋田早苗、橋本輝夫、伊東弥之助、白石 克、大矢誠一、宮坂好重、岸田絹子、平田幸雄、渡辺則文、土井作治の各氏からご好意をいただきました。記して感謝します。

目 次

名古屋市青木家所蔵文書

一 尾張国宮宿貝谷権左衛門、小嶋権兵衛飛脚賃

銀定

三井文庫所蔵文書

二 定飛脚問屋東海大道大地震ニ付当分飛脚賃之覚

安政元年

三 定飛脚問屋京都大坂江正六日限之日割步行持

幸便賃銀付 安政元年十二月

四 定飛脚問屋京都大坂江正六日限之日割步行持

幸便賃銀付 安政元年十二月

五 定飛脚問屋当分御弁利京都大坂迄十五六日目

着定日便飛脚賃 安政元年十二月

六 江戸飛脚仲間東海道筋大地震ニ付当分飛脚賃

之覚 安政元年十二月

七 江戸飛脚仲間当分飛脚賃之覚 安政元年十二

月

八 江戸出火 十一月十九日(安政五、六年欽)

九 江戸出火 十一月(安政五年欽)

一〇 江戸出火 十二月二十四日(安政五、六年欽)

一一 江戸定飛脚問屋仲間御上洛ニ付飛脚荷物延着

断書 文久三年正月

一二 江戸定飛脚仲間請負ニ付口上書 文久三年三

月

一三 江戸定飛脚仲間賃銀書 子十二月

一四 江戸定飛脚仲間賃金値増・付口上書 亥四月

一五 江戸定飛脚仲間飛脚賃値増・付口上書 亥

四、五月

一六 三道陸走会社賃銀附 明治四年六月

一七 定飛脚問屋会社賃銀附

一八 大坂屋茂兵衛他東海道、伊勢参宮道、中山道、

善光寺道、飛脚差立日

一九 江戸順番定飛脚中賃増願書 慶応三年四月

二〇 江戸順番定飛脚問屋越後屋、奈良物屋賃錢并

出日書

二一 大阪両替手形便覧、令飛脚組合 (破壊) 年卯正

二二 令米飛脚出所、大坂両替屋独案内

通信博物館所蔵文書

二三 足利小松屋注助口演書

二四 定飛脚江戸屋仁三郎御年玉早見年代記書袋

慶応義塾図書館所蔵文書

二五 堂嶋車屋源右衛門兵庫灘西国筋泉州筋飛脚休

日録

二六 堂嶋米市場堺屋喜平治西国筋毎日早飛脚出

付願書

二七 定飛脚問屋六軒仲間仕法帳 文化三年四月

北九州市立歴史博物館所蔵豊前国小倉中原文書

二八 江戸定飛脚仲間東海道筋御仕立賃銀増願書

慶応二年五月

二九 江戸出火 亥六月八日

三〇 江戸出火 亥九月十日

日本通運株式会社資料室所蔵文書

三一 定飛脚問屋島屋佐右衛門箱館定飛脚賃附

出雲国松江、原家文書

三二 東国定飛脚問屋会所賃銀等口上書 明治三年

十一月

三三 大阪諸国陸運元会社、松江諸国陸運会社、大

阪松江間物貨通送賃錢表 明治六年十一月

奈良県桜井市船谷家文書

三四 南都組合飛脚中荷物賃錢・付口上書 天保八

年七月

大阪市立大学附属図書館所蔵文書

三五 堂嶋柏屋藤松令兵庫灘西国筋泉播州米飛脚出

所

大阪市數内家文書

三六 三度飛脚所尾州宮宿貝谷權左衛門江戸井道中

筋早飛脚出日 丙辰年

三原市立図書館所蔵備後国御調郡三原西町川口家文書

三七 大阪月六度定飛脚所

日本実業史博物館旧蔵国立史料館所蔵文書(以下次号)

三八 定飛脚問屋六軒仲間仕法帳 文化三年四月

三九 定飛脚問屋和泉屋甚兵衛他東海道行程、定飛

脚出日

四〇 定飛脚所嶋屋佐右衛門東海道木曾街道筋扣抄

文政五年

四一 定飛脚京屋弥兵衛年玉両面道中記抄

四二 定飛脚京屋、山田屋年玉両面道中記抄

四三 諸国定飛脚問屋和泉屋甚兵衛御年玉道中記書

袋

四四 東京大阪廻漕蒸気船廻漕会運賃定書 明治三

年四月

四五 定飛脚会社改正賃銀附 明治四年

四六 陸運会社各地諸物貨運送賃錢表

四七 江戸三度定飛脚問屋仲間御上落・付飛脚荷物

延着之義断書 文久三年正月

四八 江戸定飛脚仲間御上落・付飛脚馬荷差立方休

口上書 文久三年二月

四九 江戸定飛脚仲間在来通飛脚差立方口上書 亥

(文久三年力) 三月

五〇 江戸定飛脚仲間当分道中請負・付口上書 亥

(文久三年力) 三月

五一 江戸定飛脚仲間別便六日限請負口上書 亥

(文久三年力) 三月

五二 江戸三度定飛脚問屋仲間大地震・付口上書

安政元年十一月十五日

五三 江戸三度定飛脚問屋仲間東海道地震以来之所、飛脚都而元向差立方ニ付口上書 安政二年二月

五四 江戸屋平右衛門江戸大地震御知書 安政二年十月七日

五五 江戸定飛脚仲間賃銀付 丑正月

五六 江戸定飛脚仲間当分飛脚賃之覚 寅十二月

五七 江戸三度定飛脚中御用向暮六ツ迄ニ仰付願書

亥四月

五八 江戸定飛脚仲間賃銀割増口上書 亥四月

五九 江戸三度定飛脚仲間七ツ半時限飛脚差立ニ付

口上書 午八月

六〇 江戸三度定飛脚仲間在来之外休日

六一 江戸定飛脚問屋中駿遠州路大荒ニ付御知書

六二 国々地震聞書

六三 三度定飛脚尾張屋吉兵衛、和泉屋甚兵衛江戸

飛脚出日定

六四 定飛脚問屋大黒屋庄治郎東京三度定飛脚出日

六五 東京第一定飛脚会社東国筋飛脚出日附

六六 京飛脚仲間御上洛ニ付為登諸便休口上書 文久三年二月

六七 命諸国早飛脚出所、大阪兩替手形便覽 嘉永二年正月改

六八 西国筋早飛脚所堂嶋堺屋兵庫灘西国筋米飛脚

出所年中休日定并出刻

六九 伏見通日雇頭仲間名印鑑 嘉永七年三月

国立史料館所蔵出羽国村山郡山家村山口家文書

七〇 定飛脚所嶋屋佐右衛門諸国飛脚差立定日

国立史料館所蔵武蔵国幡羅郡下奈良村吉田家文書

七一 定飛脚嶋屋佐右衛門諸国飛脚定日 月日

七二 定飛脚京屋、山田屋飛脚差立定日

(名古屋市青木家文書)

一 尾張国宮宿貝谷權左衛門、小嶋權兵衛飛脚賃銀定

(表紙)

(印) 早序

町方

飛脚賃銀定

(本文)

以書附相願奉申上候事

一 諸国飛脚御用向旧来不相替破為 仰付、御蔭を以家業躰續仕、千万忝仕合ニ奉存候、随而相願奉申上度候、近来追、御用向賃銀下直ニ相成、迷惑難渋仕候ニ付、或拾ヶ年以前賃銀古帳等相調可申候処、近来と者案外之相違ニ罷成申候、右様段、下直ニ相成候而は、最早此上家業躰相統難相成、迷惑至極仕候ニ付、近年私共追々打寄種、手段而已罷在候得共、彼是當用ニ被差後等閑 相成申候仕合、且亦東海道筋宿、近来割増等出来申候ニ付、飛脚人馬繼立駄賃多分相懸り迷惑仕候、

就而は是迄諸品賃銀不同高下之御請負等仕候処、不正之段御得意様方々毎度請御察答、申訳難相立候間、此度賃銀相改可相成丈下直ニ積立、不同高下無御座候様平均之定賃銀取極ノ可申候間、此段御承知被成下置、不相變御用向被仰被成下置候様奉願上候

一 京都大坂并東海道筋江戸江被仰付候御品、賃銀届先ニ而請取候様被仰付候儀茂御座候処、度、間違等有之、甚難儀仕候間、以来御當地ニ而賃銀直、御拂可被下候事

一 飛脚諸用向私共御請負仕候儀は、京都大坂ヲ始、東海道筋江戸迄ニ限り候処、諸国在、江入込候御用向之分、届賃銀直様請取候様被仰聞候儀も御座候得共、諸国在、夥數儀故、里数等聴と難相分場所多分御座候ニ付、東海道筋ハ脇道江入込候坎、又は京都大坂江戸ハ入込、届賃銀難相分場所は、以来先方ニ而御拂可被下候事

一 御狀之類江御上書ニ金子入と斗御書記、御持參被下候儀茂有之候処、萬、一火盗水難等出来候節、弁金仕候儀茂御座候ニ付、自今金子何程入と員数御書記被仰付可被下候、以来金子員数御書記無之分は弁金不仕候事

一金銀御狀類者勿論、其外何品ニ不寄御封印被成被仰付可被下候、万一御封印無之候品者、以來決^前御請負不仕候事

一為替手形入御狀之儀、度、間違御座候^而難決仕候儀有之候ニ付、以來定貨銀之外ニ増貨銀申請、飛脚之者^江申付、大切ニ取斗可申付事

一都^前御大切之御品、無銘^而被仰付候儀も御座候處、荷物造り立候節、取扱方全行届兼、長途馬荷之事故、破損等致出来、申訳難相立儀有之候ニ付、以來御上書^ニ何品と委敷御書記被仰付可被下候、若無銘^而被仰付、萬一^一無調法^而破損致出来候共、弁金不仕候事

一長尺、嵩高物、水氣、塩物、手薄成箱物類、都^而右御品、以來定貨銀之外ニ三割御増貨銀申請候事

一釐甲類、塗物、瀬戸物、硝子類、右御品、之儀於道中破損致出来、申訳難相立儀有之、難決仕候ニ付、以來馬便^ニ者御請負不仕候事

一仕切狀と唱老ケ年貨銀何程と見積り相究、御請負仕候儀茂有之候處、先年 從御役所御吟味之筋御座候^而諸

帳面取調被為 仰付候處、右仕切狀之分者帳面^江相記置不申候ニ付、不埒之段奉請 御阿重、奉恐入候、依之以來仕切狀之儀者御請負不仕候事

一諸御用向請取人相廻し候御店方茂御座候處、夜分及深更大金銀亦者御大切成御品、多分遠方持歸り候事故、盜難等之儀甚以心痛仕候間、以來諸用向御持參可^レ被下候、乍併大金銀或者嵩高成御荷物為御登、又者御下シ被遊候節者、昼之内御通達被下候者、早速罷出可申候、自分請取人相廻し不申候事

一都^而御請負申上候御品、萬一^一不相届儀御座候^而取調被仰付候儀儀茂御座候ハ、以來三ヶ年限被仰聞可被下候、右年限過候^而者諸帳面取崩候ニ付、取調出来不仕候事

一都^而金銀御出シ被下置候節、御狀ニ御封シ込被成候欝、亦は御添狀^而被為 仰付候^レ、御狀目方拾匁迄ハ貨銀不申受候得共、其余之御狀目方之割を以貨銀申請候事

勢州桑名^江

一仕立御状_ニ付

賃銀拾貳匁

但シ

同七兩余 拾兩迄 同貳匁五分

尤賃銀之儀ハ現金ニ被為仰付可被下候、以上

同

一早便金百兩_ニ付

賃銀八匁

同壹分余 壹兩迄 同壹匁貳分

同壹兩余 三兩迄 同壹匁四分

同三兩余 七兩迄 同壹匁六分

但シ 同七兩余 拾兩迄 同壹匁九分

同拾兩余 貳拾兩迄 同貳匁七分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同貳匁九分

同三拾兩余 四拾兩迄 同三匁貳分

其余四拾兩以上、百兩之割を以申請候

尤壹朱金ハ右賃銀ニ貳割増申請候

桑名

一同南鐐百兩_ニ付

賃銀拾三匁

同貳朱余 壹兩迄 同壹匁四分

同壹兩余 三兩迄 同壹匁六分

同三兩余 七兩迄 同貳匁

同

一同御状_ニ付

賃銀六分

但シ 掛目拾目迄、其余拾目_ニ付壹分増_ニ賃銀申請候、尤手形入ハ別段五分ッ、増申請候

同

一並便金百兩_ニ付

賃銀四匁

同壹分余 壹兩迄 同三分五リン

同壹兩余 三兩迄 同四分

但シ 同三兩余 七兩迄 同四分五リン

同七兩余 拾兩迄 同五分

尤三拾兩迄拾兩_ニ付五分之割を以申請候、其余百兩之割合を以賃銀申請候、勿論壹朱金ハ右賃_ニ貳割増申請候

同

一同南鐐百兩ニ付

賃銀七匁五分

同貳朱余

壹兩迄

同五分

同壹兩余

三兩迄

同七分

但シ

同三兩余

七兩迄

同九分

同七兩余

拾兩迄

賃銀壹匁壹分

其余拾兩以上百兩之割合を以申請候

桑名

一同御狀壹通

賃銀壹分

但シ大封御狀見合賃銀増申請候、尤手形入御狀ハ別

段賃銀三分ツ、増申請候

勢州四日市

一早便南鐐百兩ニ付

賃銀拾五匁

同貳朱金

壹兩迄

賃銀壹匁六分

同壹兩余

三兩迄

同貳匁

同三兩余

七兩迄

同貳匁五分

但シ

同七兩余

拾兩迄

同三匁

上

尤仕立賃銀之義ハ現金ニ御拂被遊可被下候、以

同拾兩余

貳拾兩迄

同四匁

同

一早便金百兩ニ付

賃銀九匁

同貳拾兩余

三拾兩迄

同五匁

同三拾兩余

四十兩迄

同六匁

朱金ハ右賃ニ三割増申請候
其余四拾兩以上金百兩之割合を以申請候、尤一

其 余 百 兩 之 割 合 を 以 貨 銀 申 請 候

同

一 同 荷 物 沓 貫 目 二 付

貨 銀 九 匁 五 分

五 百 目 迄 百 目 二 付 沓 匁 ツ、申 請 候、其 余 ハ 貫 目

之 割 合 を 以 申 請 候

勢 州 四 日 市

一 同 御 狀 沓 封

貨 銀 八 分

但 し 掛 目 拾 匁 迄、其 余 拾 目 二 付 式 分 ツ、増 貨 銀 申 請

候

同

一 並 便 金 百 兩 二 付

貨 銀 四 匁 五 分

同 沓 分 余

沓 兩 迄

貨 銀 四 分

同 沓 兩 余

三 兩 迄

同 四 分 五 リ ン

但 シ

同 三 兩 余

七 兩 迄

同 五 分

同 七 兩 余

拾 兩 迄

同 六 分

其 余 ハ 拾 兩 以 上 百 兩 之 割 合 を 以 申 請 候、尤 沓 朱

金 之 儀 ハ 右 貨 二 式 割 増 申 請 候

勢 州 四 日 市

一 並 便 南 鐐 百 兩 二 付

貨 銀 九 匁

同 式 朱 ヲ 沓 兩 迄

貨 銀 八 分

同 沓 兩 余 三 兩 迄

同 九 分

但 し

同 三 兩 余

七 兩 迄

同 沓 匁

同 七 兩 余

拾 兩 迄

同 沓 匁 式 分

其 余 拾 兩 以 上 百 兩 之 割 合 を 以 申 請 候

同

一 同 御 荷 物 沓 貫 目 二 付

貨 銀 沓 匁

目 方 拾 目 余

五 拾 目 迄

同 三 分

同 五 拾 目 余

百 目 迄

同 四 分

但 シ

同 百 目 余

三 百 目 迄

同 五 分

同 三 百 目 余

五 百 目 迄

同 六 分

其 余 沓 ヲ 目 之 割 合 を 以 貨 銀 申 請 候

同

一 御 狀 沓 通

貨 銀 沓 分 五 リ ン

但 し 懸 目 拾 目 迄、其 余 ハ 拾 目 二 付 五 厘 ツ、増 申 請 候

勢 州 白 子 神 戸

一 早 便 金 百 兩 二 付

貨 銀 拾 匁

同壹分余 壹兩迄 質銀壹匁五分

同壹兩余 三兩迄 同壹匁七分

同三兩余 七兩迄 同壹匁九分

但シ 同七兩余 拾兩迄 同貳匁貳分

同拾兩余 貳拾兩迄 同貳匁八分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同三匁六分

同三拾兩余 四拾兩迄 同四匁

其餘四拾兩以上百兩之割合を以申請候、尤壹朱

金貳割ツ、右質銀ニ増申請候

勢州白子神戶

一同南鐐百兩ニ付

質銀拾八匁

同貳朱余 壹兩迄 同貳匁

同壹兩余 三兩迄 同貳匁五分

同三兩余 七兩迄 同三匁

但シ 同七兩余 拾兩迄 同三匁五分

同拾兩余 貳拾兩迄 同四匁六分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同六匁貳分

同三拾兩余 四拾兩迄 同七匁貳分

其餘四拾兩以上百兩之割合を以質銀申請候

同

一同荷物壹貫目ニ付 質銀拾壹匁五分

掛目五百目ニ付壹匁貳分之割合、其餘貫目之割

但シ合を以申受候、尤重高、そんじ物ハ貳割増申請

候

同

一同御狀壹封 質銀壹匁貳分

但シ懸目拾匁迄、其餘拾目ニ付貳分ツ、増質銀申請

候、尤手形入御狀ハ別段七分ツ、増質銀申請候

同

一並便金百兩ニ付 質銀五匁

同壹分余 壹兩迄 同四分五厘

同壹兩余 三兩迄 同五分

但シ 同三兩余 七兩迄 同五分五厘

同七兩余 拾兩迄 同六分

其餘拾兩以上百兩之割合を以質銀申請候、尤壹

朱金之義、右質銀ニ貳割増申請候

勢州白子神戸

勢品津

一並便南鐐百兩ニ付

賃銀拾匁

一早便金百兩ニ付

賃銀拾貳匁

同貳朱余

壹兩迄

同 九分

同壹分余

壹兩迄

同 貳匁五分

同壹兩余

三兩迄

同 壹匁

同壹兩余

三兩迄

同 貳匁八分

但シ 同三兩余

七兩迄

同 壹匁貳分

同三兩余

七兩迄

同 三匁貳分

同七兩余

拾兩迄

同 壹匁三分

同七兩余

拾兩迄

同 三匁五分

其余拾兩以上百兩之割合を以賃銀申受候

同

一同荷物壹貫目ニ付

賃銀壹匁貳分

懸目拾目余

五拾目迄

同 四分

其余四十兩以上百兩之割合を以賃銀申請候、尤

五拾目余

百目迄

同 五分

壹朱金ハ右賃銀ニ貳割増申受候

但シ 百目余

三百目迄

同 六分

勢州津

三百目余

五百目迄

同 七分

一早便南鐐百兩ニ付

賃銀貳拾四匁

其余貫目之割を以賃銀申受候

同

一同御狀壹封

賃銀壹分八リシ

但し懸目拾目迄、其余拾目ニ付五厘ツ、之割合を以

但し

増申受候

同拾兩余

貳拾兩迄

同 六匁八分

同七兩余

拾兩迄

同 五匁五分

同三兩余

七兩迄

同 四匁五分

同壹兩余

三兩迄

同 四匁

同貳朱金

壹兩迄

同 三匁五分

同廿兩余 三拾兩迄 同 七匁四分

同

同三拾兩余 四拾兩迄 同 九匁六分

一並便金百兩ニ付

賃銀六匁五分

其余四拾兩以上百兩之割合を以賃銀申受候、以

同壹分余 壹兩迄 同 五分

上

同壹兩余 三兩迄 同 五分五リン

同

但シ 同三兩余 七兩迄 同 六分

一同御荷物壹貫目ニ付

賃銀貳拾五匁

同七兩余 拾兩迄 同 六分五リン

掛目拾目迄

同壹匁五分

其余拾兩以上百兩之割合を以賃銀申受候、

同拾目余

三拾目迄 同壹匁九分

尤壹朱金右賃ニ貳割増申受候、

但し

同三拾目余 五拾目迄 同貳匁四分

同

同五拾目余 七拾目迄 同貳匁七分

一同南鐐百兩ニ付

賃銀拾三匁

同七拾目余 百目迄 同 三匁

同貳朱余 壹兩迄 同 壹匁

尤掛目百目余五百目迄百目ニ付貳匁八分ツ、

同壹兩余 三兩迄 同 壹匁壹分

割合、其余貫目之割を以賃銀申受候

但シ 同三兩余 七兩迄 同 壹匁貳分

勢州津

同七兩余 拾兩迄 同 壹匁四分

一早速御狀壹封

賃銀壹匁五分

其余拾兩以上百兩之割合を以賃銀申受候

但し掛目拾目迄、其余ハ拾目ニ付三分増申受候、尤

同

手形入御狀ハ壹通ニ付、右賃銀壹匁ツ、増賃銀

一同御荷物壹貫目ニ付

賃銀 貳匁

申受候

目方三拾目余 百目迄 同 六分

但し 同百目余 三百目迄 同 八分

同三百目余 五百目迄 同 壹匁

其余五百目以上貫目之割を以賃銀申受候

勢州津

一並便御状壹通ニ付

賃銀貳分

掛目拾目迄、其余拾目ニ付賃銀五厘ツ、増申受候、尤手形入御状ハ別段六分ツ、増申受候

勢州松坂山田

一早便金百兩ニ付

賃銀貳拾匁

同壹分余 壹兩迄 同 三分

同壹兩余 三兩迄 同 三分五分

同三兩余 七兩迄 同 四分貳分

但し 同七兩余 拾兩迄 同 五匁

同拾兩余 貳拾兩迄 同 六匁

同貳拾兩余 三拾兩迄 同 七匁

同三拾兩余 四十兩迄 同 八匁

其余四拾兩以上八百兩之割合を以賃銀申受候、

尤壹朱金右賃銀ニ貳割ツ、増申受候

同

一早便南鐐百兩ニ付

賃銀四拾匁

同貳朱余 壹兩迄 同 四分

同壹兩余 三兩迄 同 四分七分

同三兩余 七兩迄 同 六匁三分

但し 同七兩余 拾兩迄 同 七匁五分

同拾兩余 貳拾兩迄 同 拾匁

同貳拾兩余 三拾兩迄 同 拾三分

同三拾兩余 四拾兩迄 同 拾六匁

其余四拾兩以上百兩之割合を以賃銀申受候

同

一早便御荷物壹貫目ニ付

賃銀三拾匁

掛目拾目迄 賃銀貳匁五分

同拾目余 三拾目迄 同 貳匁八分

但し 同三拾目余 五拾目迄 同 三匁貳分

同五拾目余 七拾目迄 同 三匁七分

同七拾目余 百目迄 同 四分

尤百目余五百目迄百目ニ付三分五分割合を以

質銀申受候、其余貫目之割合を以御請負申候
勢州松坂山田

一 早便御状沓封

質銀貳匁五分

掛目拾文目迄、其余拾目ニ付質銀五分ツ、之割合を以申受候、尤手形入御状ハ沓通ニ付右質之外七分宛増申受候

同

一同御荷物沓貫目ニ付

質銀貳匁五分

掛目拾目余 百目迄 同 五分

同

一 並便金百兩ニ付

質銀 九匁

同沓分余 沓兩迄 同 七分

同沓兩余 三兩迄 同 八分

但し 同三兩余 七兩迄 同 沓匁

同七兩余 拾兩迄 同 沓匁貳分

其余拾兩以上百兩之割合を以質銀申受候、尤沓朱金貳割ツ、増質銀申受候

松坂山田

但し 同三百目余 五百目迄 同 沓匁五分
其余五百目以上貫目之割合を以質銀申受候、尤重高、そんじ物ハ右質ニ貳割増申受候

一 並便御状沓通ニ付

質銀貳分

同

一同南鐐百兩ニ付

質銀貳拾匁

同貳朱余 沓兩迄 同 沓匁貳分

同沓兩余 三兩迄 同 沓匁五分

京都五

一時廻シ仕立拾四時限

質金沓兩

同

但シ 御状老通ノ懸目貳百目迄、其余百目ニ付三匁宛増賃銀申請候、惣持目高老貫目迄請負仕候

一早便金百兩ニ付

賃銀拾匁

金老分余 老兩迄 賃銀 貳匁四分

同老兩余 三兩迄 同 貳匁六分

同三兩余 七兩迄 同 貳匁八分

但シ 同七兩余 拾兩迄 同 三匁

同拾兩余 貳拾兩迄 同 三匁四分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同 三匁七分

同三拾兩余 四拾兩迄 同 四匁

其余四十兩以上百兩之割を以賃銀申請候、尤一

朱金ハ右賃銀ニ貳割増賃銀申請候、尤金子御状

ニ御封シ込哉、又ハ別添御状御出シ被遊候共、

状目拾目迄ハ別賃ニハ及不申候、其余懸目拾目

ニ付四分五リノ宛増賃銀申請候

京都

一同南鐐百兩ニ付

賃銀貳拾匁

同貳朱余 老兩迄 同貳匁八分

同老兩余 三兩迄 同三匁三分

同三兩余 七兩迄 同三匁八分

但シ 同七兩余 拾兩迄 同四匁四分

同拾兩余 貳拾兩迄 同五匁八分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同六匁六分

同三拾兩余 四拾兩迄 同八匁

尤南鐐四拾兩余以上ハ百兩之割合を以賃銀申

請候

同

一同御荷物老ノ目ニ付

賃銀貳拾匁

掛目拾目迄 同老匁三分

同拾目余 三拾目迄 同老匁八分

但シ 同三拾目余 五拾目迄 同貳匁三分

同五拾目余 七拾目迄 同貳匁五分

同七拾目余 百目迄 同貳匁八分

尤掛目百目余五百目迄百目ニ付貳匁五分割合、

其余貫目之割を以賃銀申請候、但シ重高物、そ

んじ物ハ右賃ニ式割増申請候

同

一同御状沓通ニ付

賃銀沓匁三分

同

但シ 同三兩余 七兩迄 同 九分

同七兩余 拾兩迄 同 沓匁

掛目拾目迄、其余拾目ニ付三分宛増賃申請候、

一同御荷物沓貫目ニ付 賃銀沓匁五分

尤手形入御状ハ沓通ニ付右賃銀外ニ七分宛増

目方拾目ノ 百目迄 同 五分

申請候

但シ 同百目ノ 三百目迄 同 七分

京都

一 並便金百兩ニ付

賃銀四匁五分

其五百目余ハ貫目之割を以申請候、尤重高

同沓分余 沓兩迄 同 四分

物、そんじ物ハ式割増申請候

但シ

同沓兩余 三兩迄 同 四分五厘

同

同三兩余 七兩迄 同 五分

一同御状沓通ニ付 賃銀貳分

同七兩余 拾兩迄 同 五分五厘

但シ掛目拾目迄、其余拾目ニ付五厘宛増賃銀申請

其余拾兩以上百兩之割合を以賃銀申請候、尤一

候、尤手形入御状ハ沓通ニ付右賃銀之外六分宛

朱金ハ右賃ニ式割増申請候

増申請候

同

一同南鐐百兩ニ付

賃銀九匁

大坂

同貳朱余 沓兩迄 同 七分

一時廻シ十六時限仕立 賃銀沓兩貳分

同沓兩余 三兩迄 同 八分

御状沓通ヲ懸目貳百目迄、其余百目ニ付賃銀三

但シ 匁ツ、増申請候、尤持目高尅貫ニ限り申候、其

内仕立賃金ハ直様道中筋^五も直々相拂候事、右
現金ニ被仰付可被下候

同

一早速金百兩ニ付

賃銀拾尅匁

金尅分金 尅兩迄 同 貳匁六分

同尅兩余 三兩迄 同 貳匁八分

同三兩余 七兩迄 同 三匁

但シ 同七兩余 拾兩迄 同 三匁三分

同拾兩余 貳拾兩迄 同 三匁七分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同 四匁

同三拾兩余 四十兩迄 同 四匁四分

其余四拾兩以上百兩之割を以賃銀申請候、一朱

金は右賃ニ貳割増申請候、尤御狀ニ御封込、又

ハ別添狀等御座候、其狀目拾目余ハ拾目ニ付三

分宛増申請候

同

一同南錄百兩ニ付

賃銀貳拾貳匁

同貳朱余 尅兩迄 同 三匁

同尅兩余 三兩迄 同 三匁六分

同三兩余 七兩追 同 四匁貳分

但シ 同七兩余 拾兩迄 同 四匁八分

同拾兩余 廿兩迄 同 六匁三分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同 七匁貳分

同三拾兩余 四拾兩迄 同 八匁八分

其余ハ四拾兩以上百兩之割を以賃銀申請候

大坂

一早速御荷物尅貫目ニ付

賃銀貳拾五匁

掛目拾目迄 賃銀尅匁五分

同拾目余 三拾目迄 同貳匁四分

但シ 同三拾目余 五拾目迄 同三匁

同五拾目余 七拾目迄 同三匁貳分

同七拾目余 百目迄 同三匁五分

尤百目五百目迄百目ニ付三匁宛、其余貫目之割

を以賃銀申請候、其内重高、そんじ物ハ貳割増

申請候

同

一同御状沓封ニ付

賃銀沓匁五分

大坂

其余拾兩以上百兩之割を以賃銀申請候

但シ 掛目拾目迄、其余拾目ニ付三分宛増申請候、尤
手形御状沓通ニ付右賃銀之外ニ七分増申請候

一並御荷物沓貫目ニ付

賃銀沓匁八分

同

一並便金百兩ニ付

賃銀五匁五分

但シ 同百目余 三百目迄 同 八分

同三百目余 五百目迄 同 沓匁沓分
其余五百目以上貫目之割を以賃銀申請候

同金沓分余 沓兩迄 同 五分

同沓兩余 三兩迄 同 五分五リン

同

但シ 同三兩余 七兩迄 同 六分

一同御状沓通ニ付

賃銀貳分

同七兩迄 拾兩迄 同 六分五リン

但シ 掛目拾目迄、其余拾目ニ付五厘ツ、増申請候、
尤手形入御状ハ沓通ニ付別段増六分ツ、申請

候
其余拾兩以上百兩之割を以賃銀申請候、尤一朱
金は右賃ニ貳割増申請候

同

一同南鐐百兩ニ付

賃銀拾沓匁

江戸表Ⅱ

賃銀定

同貳朱余 沓兩迄 同 九分

一時廻シ三十時限仕立

賃銀三兩貳歩

同沓兩余 三兩迄 同 沓匁

右同断

但シ 同三兩余 七兩迄 同 沓匁沓分

一、同 三十六時限仕立

賃金三兩

同七兩余 拾兩迄 同 沓匁貳分

御状_カ封_ル掛目貳百目迄、其余百目ニ付賃銀五

但シ

匁ツ、之割合を以増申請候、尤惣持目_カ貫目迄御請負申候、且仕立御状之義ハ賃銀直ニ御添被

仰付可被下候様奉願候

江戸表_五

一早便金百兩ニ付

賃銀貳拾五匁

金_カ歩_カ

匁兩迄

賃銀三匁

同_カ兩余

三兩迄

同 三匁五分

同_カ三兩余

七兩迄

同 四匁

同_カ七兩余

拾兩迄

同 四匁五分

但シ

同_カ拾兩余

貳拾兩迄

同 六匁三分

同_カ貳拾兩余

三拾兩迄

同 八匁七分

同_カ三拾兩余

四拾兩迄

同 拾匁_カ匁分

同_カ四拾兩余

五拾兩迄

同 拾貳匁五分

其余ハ金百兩賃銀之割合を以申請候

右同断

一同_カ金朱金百兩ニ付

賃銀三拾貳匁五分

金_カ匁朱_カ

匁兩迄

賃銀三匁九分

但シ

同_カ兩余

三兩迄

同 四匁六分

同_カ三兩余

七兩迄

同 五匁三分

同_カ七兩余

拾兩迄

同 五匁九分

同_カ拾兩余

貳拾兩迄

同 七匁八分

同_カ貳拾兩余

三拾兩迄

同 拾匁_カ

同_カ三拾兩余

四拾兩迄

同 拾四匁_カ匁分

同_カ四拾兩余

五拾兩迄

同 拾六匁貳分五厘

其余金百兩賃銀之割合を以申請候

江戸表_五

一早便南鐐百兩ニ付

賃銀六拾匁

金_カ貳朱_カ

匁兩迄

賃銀四匁貳分

同_カ兩余

三兩迄

同 四匁五分

同_カ三兩余

七兩迄

同 六匁

同_カ七兩余

拾兩迄

同 九匁五分

但シ

同_カ拾兩余

貳拾兩迄

同 拾三匁三分

同_カ貳拾兩余

三拾兩迄

同 拾九匁貳分

同_カ三拾兩余

四拾兩迄

同 貳拾五匁_カ匁分

同_カ四拾兩余

五拾兩迄

同 三拾匁

其金百兩貨銀之割合を以申請候

右同断

一同御荷物老貫目ニ付

貨銀四拾五匁

掛目 拾文目迄

貨銀老匁六分

同拾匁余

三拾目迄

同 貳匁五分

但シ

同三拾目余

五拾目迄

同 三匁四分

同五拾目余

七拾目迄

同 四匁三分

同七拾目余

百目迄

同 五匁

尤懸目五百目迄ハ百目ニ付五匁之割合を以申

請候、其金貫目之割合を以貨銀申請候、勿論重

高物、損シ物三割増申請候

江戸表五

一早便御状老封

貨銀老匁六分

但シ

懸目拾文目迄、其金拾文目ニ付四分五厘宛之増

申請候、尤手形入御状ハ老通ニ付老匁ツ、増申

右同断

一並便金百兩ニ付

貨銀九匁

金老歩

老兩迄

貨銀七分

同老兩余

三兩迄

同 八分

但シ

同三兩余

七兩迄

同 老匁

同七兩余

拾兩迄

同 老匁貳分

同拾兩余

貳拾兩迄

同 老匁八分

其金百兩貨銀之割合を以申請候

右同断

一同老朱金百兩ニ付

貨銀拾老匁七分

金老朱

老兩迄

貨銀八分

同老兩余

三兩迄

同 老匁

但シ

同三兩余

七兩迄

同 老匁貳分

同七兩余

拾兩迄

同 老匁五分

同拾兩余

貳拾兩迄

同 貳匁三分四厘

其金百兩貨銀之割合を以申請候

江戸表五

一並便南鐐百兩ニ付

貨銀貳拾五匁

同貳朱

老兩迄

貨銀老匁貳分

同老兩余

三兩迄

同老匁六分

但シ 同三兩余 七兩迄 同式匁貳分

同七兩余 拾兩迄 同三匁

同拾兩余 貳拾兩迄 同五匁

其余金百兩貨銀之割合を以申請候

右同断

一同荷物匁貫目ニ付 貨銀五匁五分

懸目百目迄 貨銀八分

但シ 同百目余 貳百目迄 同匁匁五分

同貳百目余 三百目迄 同式匁匁分

同三百目余 五百目迄 同式匁七分五厘

其余五百目以上貫目之割合、尤重高物、損シ物

三割増申請候

右同断

一同御状匁封ニ付 貨銀貳分五厘

掛目拾目迄、其余拾目ニ付匁分ツ、増申請候、

但シ 尤手形入御状匁封ニ付別段貨銀七分ツ、増申

請候

一駿州路ノ東海道中、江戸同様之貨銀申請候

遠州路

一早便金百兩ニ付 貨銀拾五匁

金匁歩ノ 匁兩迄 貨銀貳匁五分

同匁兩余 三兩迄 同三匁

同三兩余 七兩迄 同三匁五分

同七兩余 拾兩迄 同四匁

但シ 同拾兩余 貳拾兩迄 同五匁

同貳拾兩余 三拾兩迄 同六匁三分

同三拾兩余 四拾兩迄 同七匁

同四拾兩余 五拾兩迄 同七匁五分

其余金百兩貨銀之割合を以申請候、尤匁朱金右

貨銀ニ三割増申請候

遠州路

一早便南銀百兩ニ付 貨銀三拾五匁

同貳朱ノ 匁兩迄 貨銀三匁五分

同匁兩余 三兩迄 同四匁

同三兩余 七兩迄 同五匁五分

但シ 同七兩余 拾兩迄 同七匁

同拾兩余 貳拾兩迄 同九匁

同貳拾兩余 三拾兩迄 同拾貳匁

同三拾兩余 四拾兩迄 同拾五匁五分

同四拾兩余 五拾兩迄 同拾七匁

其余ハ金百兩貨銀之割合を以申請候

遠州路

一同御荷物尅貫目ニ付 貨銀三拾匁

掛目三拾目迄 貨銀尅匁九分

同三拾目余 五拾目迄 同貳匁五分

但シ 同五拾目余 七拾目迄 同三匁尅分

同七拾目余 百目迄 同三匁五分

尤懸目五百目迄百目ニ付銀三匁五分ツ、之割、

其余貫目之割合を以貨銀申請候、勿論重高物、

損シ物ハ見斗三割増申請候

遠州路

一早便御狀尅通ニ付 貨銀尅匁三分

懸目拾目迄、其余拾目ニ付三分宛増申請候、尤

翻刻飛脚関係摺物史料(一)(藤村)

但シ 手形入御狀ハ別段六分貨銀申請候

遠州路

一並便金百兩ニ付 貨銀六匁五分

金尅歩々 尅兩迄 貨銀五分

同尅兩余 三兩迄 同六分

但シ 同三兩余 七兩迄 同八分

同七兩余 拾兩迄 同尅匁

金拾兩余 貳拾兩迄 同尅匁七分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同貳匁三分

同三拾兩余 四拾兩迄 同貳匁八分

同四拾兩余 五拾兩迄 同三匁貳分五厘

其余金百兩貨銀之割合を以申請候、尤尅朱金之

儀ハ右貨ニ三割増申請候

右同断

一同南鐐百兩ニ付 貨銀拾三匁

同貳朱々 尅兩迄 貨銀尅匁貳分

但シ 同尅兩余 三兩迄 同尅匁四分

申請候

同三兩余 七兩迄 同壹匁六分

同七兩余 拾兩迄 同壹匁九分

同拾兩余 貳拾兩迄 同三匁壹分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同四匁五分

同三拾兩余 四拾兩迄 同五匁八分

同四拾兩余 五拾兩迄 同六匁五分

其餘ハ金百兩貨銀之割合を以申請候

三筋路

一早便金百兩ニ付

貨銀拾貳匁

金壹歩ろ 壹兩迄 貨銀貳匁

同壹兩余 三兩迄 同貳匁五分

同三兩余 七兩迄 同貳匁七分

但シ 同七兩余 拾兩迄 同三匁

同拾兩余 貳拾兩迄 同三匁八分

同貳拾兩余 三拾兩迄 同四匁六分

同三拾兩余 四拾兩迄 同五匁五分

同四拾兩余 五拾兩迄 同六匁

其餘ハ金百兩之貨銀割合を以申請候、尤壹朱金

ハ右貨銀ニ三割増申請候

三筋路

一早便南鐐百兩ニ付

貨銀貳拾四匁

南鐐壹片ろ 壹兩迄 貨銀三匁

同壹兩余 三兩迄 同三匁八分

遠州路

一並便荷物壹貫目ニ付

貨銀三匁五分

但シ 懸目五拾目迄 貨銀四分

同五拾目余 百目迄 同五分

其餘掛目五百目迄百目ニ付五分ツ、之割を以

貨銀申請候、尤五百目以上之義ハ貫目之割合を

以貨銀申請候、重高物、損シ物貳割増申請候

遠州路

一並便御狀壹封

貨銀貳分

但シ 懸目拾文目迄其餘拾目ニ付、八厘ツ、之割を以

増申請候、尤手形入御狀ハ壹通ニ付別段宛之増

同三兩余 七兩迄 同四匁六分

同七兩余 拾兩迄 同五匁四分

但シ 同拾兩余 貳拾兩迄 同七匁

同貳拾兩余 三拾兩迄 同九匁四分

同三拾兩余 四拾兩迄 同拾匁八分

同四拾兩余 五拾兩迄 同拾貳匁

其余ハ金百兩貨銀之割合を以申請候

右同断

一同荷物尅貫目ニ付 貨銀貳拾匁

掛目拾目ハ 三拾目迄 貨銀尅匁六分

同三拾目余 五拾目迄 同貳匁

但シ 同五拾目余 七拾目迄 同貳匁四分

同七拾目余 百目迄 同貳匁八分

其余貫目之割合を以貨銀申請候、尤損シ物、重

高物見合貳割増申請候

三州路

一早便御狀尅封 貨銀尅匁貳分

懸目拾目迄、其余拾目ニ付貳分ツ、増貨銀申請

但シ 候、尤手形入ハ別段五分ツ、貨銀申請候

右同断

一並便金百兩ニ付 貨銀五匁

金尅歩ハ 尅兩迄 貨銀四分

同尅兩余 三兩迄 同五分

但シ 同三兩余 七兩迄 同六分

同七兩余 拾兩迄 同七分

其余五拾兩迄ハ拾兩ニ付六分ツ、之割合を以
貨銀申請候、五拾兩以上金百兩貨銀之割合を以申

請候、尤尅朱金ハ右貨銀ニ三割増申請候

右同断

一同南鐐百兩ニ付 貨銀拾匁

南鐐尅片ハ 尅兩迄 貨銀八分

同尅兩余 三兩迄 同九分

但シ 同三兩余 七兩迄 同尅匁貳分

同七兩余 拾兩迄 同尅匁八分

同拾兩余 貳拾兩迄 同貳匁七分

同式拾兩余 三拾兩迄 同三匁五分

其_レ余ハ金百兩貨銀之割合を以申請候

三州路

口上 丑六月

貝谷權左衛門

一並便荷物匁實目ニ付

貨銀貳匁

覚 酉二月

小嶋權兵衛

懸目拾目_ハ 五拾目迄 貨銀三分

但_シ

同五拾目余 百目迄 同五分

同百目余 三百目迄 同八分

同三百目余 五百目迄 同匁匁五分

其_レ余五百目以上ハ實目貨銀之割合を以申請候

三羽路

一並便御狀匁通

貨銀匁分五厘

但_シ

懸目拾文目迄、其_レ余拾目ニ付貨銀五厘_ツ、増申

請候、尤手形入御狀ハ別段四分_ツ、増申請候

右者今般當所

一御狀匁通

貨銀貳匁四分

御役所_正御達申上候之上、家業鉢諸仕法相極并貨銀等相

定申候間、宜數御承知被成下、不相變御用被仰付候様仕

同

度、此段御頼申上候、以上

文政八乙酉年十一月

但持目五拾匁迄、其_レ余拾匁ニ付貨銀六分之割合

一御狀箱匁

貨銀六匁

(三井文庫所藏文書)

二 定飛脚問屋東海道大地震ニ付当分飛脚賃之覚

乍恐以書付奉申上候

一東海道筋大地震ニ付、飛脚差立方去ル八日_ハ相休罷在

候処、幸便物数日相休罷在候_而は御差支之段奉恐入候

ニ付、当分御弁利之幸便飛脚差立申候、御貨銀付左之

通

京大坂道中筋共

一御狀匁通

貨銀貳匁四分

但持目三拾匁迄、其_レ余拾匁ニ付貨銀六分之割合

同

一御狀箱匁

貨銀六匁

同

一金百兩ニ付

貨銀六拾六匁

但金拾兩迄は板行帳式割増ニ而頂戴仕候、尤小

判疋分金、式朱金ニ限り御受負仕候、疋歩銀、疋

朱銀等其外重目物ハ御断申候

一日限之儀者

京都迄十二日目位着之日割

大坂迄十三日目位着之日割

但是迄相定御座候六日限、七日限、八日限、十

日限、並便等之御受負ハ一切不仕候、尤仕立之

儀ハ是迄通御請負仕候事

右之通当分為御弁理差立申候、尤是迄御請負申上候六日

限之貨銀乍申請、御日限相勤不申儀は奉恐入候得共、地

震ニ而破損致候宿々馬継手間取、其上早立遅泊等は難相

成、諸雜費而已格別ニ相懸り難波仕候間、乍恐此段奉願

上候、猶道中筋相直り次第、是迄之通可奉相勤候間、御

聞濟之程偏ニ奉願上候、以上

寅十一月廿六日ハ差立申候

定日之儀ハ仕来之出日ニ而御座候 定飛脚問屋

翻刻飛脚關係摺物史料(一)(藤村)

夜五ツ時限御持参可被下候(印)「江戸屋仁三郎」(江戸屋)

(同物の物で印が「京屋弥兵衛／山田屋八左衛門」のものあり)

三 定飛脚問屋京都大坂正六日限之日割步行持幸便貨銀付

便貨銀付

京都大坂正六日限之日割步行持幸便貨銀付

「京都大坂并東海道筋共」

一正六日限書状疋通

貨銀三匁

但持目拾匁迄、其余拾匁ニ付疋之割

尤三百目ハ重目之御荷物ハ御請負不仕候

手形入之分は右貨銀錢式匁増し

右之貨銀を以是迄仕来出日之通、月十八齋差立申

候、以上

寅

定飛脚問屋

十二月十二日ハ

(印)「京屋弥兵衛

差立申候

山田屋八左衛門」

四 定飛脚問屋京都大坂_江正六日限之日割步行持幸

便賃銀付

京都大坂_江正六日限之日割步行持

幸便賃銀付

京都大坂_并東海道筋共

一正六日限御状_老通

賃銀五匁

但持目三十匁迄、其余拾匁_二付銀_老匁之割

尤三百目_ノ重目之御荷物は御請負仕兼候

御手形入之分ハ、右御賃銀_江銀式匁御増し頂戴仕候

右之賃銀を以是迄仕来之出日之通、月十八齋飛脚差立申

候間、御用向被 仰付可被下候、以上

寅

定飛脚問屋

十二月十二日_ハ

(印)「京 屋弥 兵衛

差立申候

山田屋八左衛門」

五 定飛脚問屋当分御弁利京都大坂迄十五六日目着

定日便飛脚賃

當分御弁利京都大坂迄十五六日目着

定日便飛脚賃銀附

京都大坂_并東海道筋共

一御状_老通

賃銀七分式厘

但持目三十匁迄、其余拾匁_二付_老分八厘

一御状箱

賃銀式匁四分

但持目五十匁迄、其余拾匁_二付_老分八厘

一御荷物_ノ目_二付

賃銀拾八匁

但掛目五百目迄御状之割、夫_ハ以上貫目之割合其

余は_老ノ目之割

一金百兩_二付

賃銀廿四匁

但金式朱_ハ老兩迄

銀九匁六厘

同老兩余三兩迄

同老匁式分

同三兩余五兩迄

同老匁四分四厘

同五兩余七兩迄

同老匁六分八厘

同七兩余拾兩迄

同式匁四分

其余拾兩以上百兩之割合

一 沓分銀百兩ニ付
沓朱銀百兩ニ付

賃銀三拾六匁

但銀沓分々沓兩迄

銀沓匁貳分

同沓兩余三兩迄

同沓匁四分四厘

同三兩余五兩迄

同沓匁八分

同五兩余七兩迄

同式匁四分

同七兩余拾兩迄

同三匁六分

其余拾兩以上百兩之割合

一 御証文、御手形入之分は御狀賃之外ニ銀沓匁御増奉

頂戴候

右之御賃銀を以、當分御弁利ニ差立申候

一 十一月廿六日ハ差立候京都大坂迄十二三日目着早便

飛脚之儀、追々道中筋相開ケ候ニ付、去ル十六日出ル京

都大坂迄八日九日目着ニ相勤申候間、右兩様共不相替御

用向被仰付可被下候様、偏ニ奉願上候、以上

寅十二月ハ定日之儀は仕来之 定飛脚問屋

出日毎月十八齋差立申候 (印)「江戸屋仁三郎」

六 江戸飛脚仲間東海道筋大地震ニ付當分飛脚賃之

覚

乍恐以書附奉申上候

一 東海道筋大地震ニ付、飛脚差立方十一月十五日ハ相休

罷在候處、辛便物數日相休罷在候而御差支之段奉恐入

候ニ付、當分御弁利之辛便飛脚差立申候御賃銀左之通

江戸表迄

一 御狀 沓通 賃銀貳匁五分

但シ持目拾匁迄、余ハ拾匁ニ付賃六分之割合、且

亦手形証文入は右賃銀外ニ沓匁増申受候事

同

一 御狀箱 賃銀六匁

但シ持目三拾迄、余は拾匁ニ付賃六分之割合

同

一金百兩ニ付 賃銀五拾五匁

但シ金拾兩迄ハ御請負仕候、賃銀は外ニ貳割増頂

戴仕候、尤重目物は御断申候

同

一日限之儀は江戸表^并十一日目位之着

通り暮六ツ時限り

(即)「江戸屋平右衛門」

但シ是迄定御座候六日切、七日切、八日切、十日

切、並便等御請負は一切不仕候、尤別立^并正

六日限之義は、是迄通り御受負仕候事

七 江戸飛脚仲間当分飛脚賃之覺

当分飛脚賃之覺

同

一十五六日便 荷物^モ目ニ付賃銀貳拾匁

江戸表迄

一御状 沓通

賃銀沓匁

但シ吉田宿^ハ先之義は、右十五六日便ニ差合候ニ

付、賃銀之義は右同断申受候事

持目拾匁迄、余は拾匁ニ付、賃六分之割合
尤手形証文入ハ外ニ沓匁増申受候

一道中筋早便之義は、吉田宿迄是迄之通り之賃銀ニ而

同

御受負仕候、夫^ハ先宿之儀ハ前文江戸同様之賃銀ニ而

一金百兩ニ付

賃廿五匁

而御請負仕候事

但シ 五兩迄は 賃三匁

一道中筋並便之義は、吉田宿迄是迄之通り之賃銀にて

拾兩迄は 賃四匁

御受負仕候事

其余は百兩之割合

但し毎月五ノ日飛脚差立申候

同

右之通当分御請負仕、尤道中筋相直り次第、是迄之通可

奉勤仕候間、御聞濟之程偏ニ奉願上候、以上

一日限之儀 江戸迄十一日目位之着

寅十二月八日^ハ

但シ是迄定御座候、六日切、七日切、十日切、並便
等之御受負ハ一切不仕候、尤別仕立^并正六日

差立申候、飛脚出目ハ是迄

江戸飛脚仲間

限之義ハ、是迄通り御受負仕候事

同

一十五六日便 荷物^モ目ニ付賃銀拾五匁

但シ吉田宿^ノ先之儀ハ、右十五六日便ニ差合候ニ

付、賃銀之義ハ右同断申受候事

一道中筋早便之儀ハ、吉田迄ハ是迄之通賃銀ニ而御請負

仕候、夫^ノ先宿々之儀ハ前文江戸同様之賃銀ニ而御受

負仕候支

一道中筋並便之義ハ、吉田迄ハ是迄之通り之賃銀ニ而御

受負仕候事

但し毎月五ノ日飛脚差立申候

右之通、当分之弁利ニ飛脚差立申候間、在来之定日通り

暮六ツ時限り御持参可被下候、已上

寅十二月八日^ノ

差立申候

(印) 江戸飛脚仲間

「江戸屋平右衛門」

(同文の物で印が「大④坂ノ内平野町式丁目ノ江戸金飛脚ノ江戸屋平右衛門」のものあり)

八 江戸出火

江戸出火

當十五日朝寅刻佐久間町辺^ノ出火、北風強、東ハはくろ町、横山町、小伝馬町、大伝馬町、塩町、人形町、堀留、瀬戸物丁、伊勢丁、四日市、本材木町、八丁堀、両国辺、西ハ筋違見附^ノ鎌倉岸、鍛冶橋辺迄、平一面之焼、申刻未火鎮不申候

十一月十九日

(印)「江戸屋

平右衛門」

印

(印)「江戸ノ定飛脚仲間ノ三度」

九 江戸出火

江戸出火

當十五日朝寅刻佐久間町辺^ノ出火、北風強、相生町、松永町、八官町、平川町代地焼失、夫^ノ内、神田小柳町、平なか丁、紺屋丁代地、九軒丁、市橋御屋敷、おた間池、松田丁、白壁丁、紺屋丁通、す田丁、新石丁、鍋丁、鍛冶町、今川橋、十軒店、室町^二三、日本橋迄、西ハ、れ

ん尺町、佐栖丁、田町、白銀町、新石丁、龍閑丁、松下町、三川丁、鎌倉川岸、白か禰町卷二三四、石町卷二三四、本町卷二三四、駿河丁、品川丁、東へ小伝馬丁、馬喰町一二三、大伝馬丁、田所町、はせ川町西側少、さ加い町、茅屋町、よ志丁、照降町、小船丁、本船町、せ戸物町、小田原町、日本橋、四日一、青物町、萬丁、佐内町、通一丁め東側迄、松町、新右衛門丁、通二三四丁目、中橋、南伝馬町一二三、京橋迄、西川岸丁残、呉服丁南側、御堀端迄、大工丁、桧物丁、上楨丁、桶町、南大工丁、五郎兵衛丁迄焼、子刻火鎮申候、飛火にて因幡様屋舗少、焼

十一月

江戸 ☐ (被損)

☐ 印

平 ☐ (被損) 衛門

(印)「江戸／定飛脚仲間／三度」

一〇 江戸出火

(印)「江戸／定飛脚仲間／三度」

江戸出火

☐ 印

当十六日夜子刻、小網町通箱崎丁一丁目中程より出火、同町不残焼失、丑上刻火鎮申候

十二月二十四日

(印)「江戸屋

平右衛門」

(同文の物で印が「津国屋／十右衛門」のものあり)

一一 江戸定飛脚問屋仲間御上洛ニ付飛脚荷物延着

断書

乍憚以書附御断奉申上候

一近來道中筋宿、馬拂底之折節、諸家様方御大勢御通行被遊候ニ付、飛脚荷物継立方不尺取、往返共格外之延着ニ而申訳も無御座候、然此段

御上洛被爲在候ニ付、諸侯様追、御旅行被遊、弥以飛脚荷物継立方障取、江戸表江幸便六日限之飛脚十五日、或は廿日餘りも相掛り可申候、尤八日限、十日限之分も右ニ准シ延着可仕候、幾重ニも御勘弁可被成下

候、且は御差急御用向之儀者正六日限便ニ被仰付可被

亥三月

江戸定飛脚

成下候、此段御断奉申上候、以上

仲間 印

但し三州路の江戸表共並便之儀は当分相休申候、尤

(印「江戸／定飛脚仲間／三度」)

金銀書狀之分は御弁利仕候

右之條御聞濟可被成下候様奉願上候、以上

一三 江戸定飛脚仲間賃銀書

文久三亥年

江戸定飛脚問屋

(表紙)

正月

仲間 印

(印「江戸／定飛脚仲間／三度」)

賃銀書

一二 江戸定飛脚仲間請負ニ付口上書

(本文)

乍憚口上

乍恐口上

一當節道中筋混雜致候ニ付、繼立方尺取不申、依之四月朔日^ヨ当分之内、正六日限幸便六日限^井道中早便^{而巳}御請負仕、其余諸便とも暫相休申候間、此段御断申上候、以上

但し別仕立之儀者、何時^ニも差立可申候、都^而先拂

賃之儀者一切御断申上候、尤別便六日限者差立

可申候

用向被仰付可被下候様奉願上候、已上

子

江戸定飛脚

十二月

仲間印

(印「江戸／定飛脚仲間／三度」)

一御状捲通ニ付

六日限

賃銀貳匁

但掛目貳拾目迄、其余十匁ニ付六分替

八日限

同 老匁貳分

右同断

其余十匁ニ付四分替

十日限

同 七分

右同断

其余十匁ニ付三分替

一御状箱

六日限

賃銀五匁

但掛目三拾目迄、其余十匁ニ付六分替

八日限

同 三匁

右同断

其余十匁ニ付四分替

十日限

同 貳匁

右同断

其余十匁ニ付三分替

但御手形御証文々入ハ銀匁々ツ、御増奉申請候

一御荷物卷ノ目ニ付

六日限

賃銀五十五匁

八日限

同 三十三匁

十日限

同 貳十匁

但五百目以下ハ書状割

但永尺、嵩物、水気、塩気、手薄之御箱物類、都而

右定賃之外ニ三割之御増奉申請候

一金百兩ニ付

六日限

賃銀五拾匁

但金子入_δ 三匁五分 老兩余_δ 四匁

老兩迄

三兩迄

三兩余_δ 五匁

七兩余_δ 五匁五分

八日限

同 三十五匁

但金子入_δ 貳匁

老兩余_δ 貳匁五分

老兩迄

三兩迄

三兩余_δ 三匁

七兩余_δ 三匁五分

十日限

賃銀廿貳匁

但金子入⁶ 壹匁五分 壹兩余⁶ 貳匁
壹兩迄 三兩迄

三兩余⁶ 貳匁五分 七兩余⁶ 三匁
七兩迄 十兩迄

但壹朱銀、壹步銀ハ右貨倍增奉申請候

一 銀壹匁匁付

六日限

賃銀六十匁

八日限

同 三十五匁

十日限

同 貳十貳匁

一 別仕立御狀壹通

正三日半限

賃金八兩貳分

正四日限

同金五兩貳分

但掛目三百匁迄、其余百目付貳拾匁替

正五日限

同金四兩貳分

正六日限

同金三兩

但掛目三百匁迄、其余百匁付十五匁替

但金相場壹兩付六十四匁立、端銀壹匁付錢百文

立

一四 江戸定飛脚仲間賃金値増付口上書

乍憚口上

一 近年道中筋困窮、弥増諸雜用相嵩、尚又追々割増被仰出候付、別仕立賃金左之通奉願上候

一 時廻御狀壹通付

正三日半限賃金八兩貳步

正四日限 同金五兩貳步

但掛目三百匁迄、其余百目付銀貳拾目替

正五日限 賃金四兩貳步

正六日限 同金三兩

但掛目三百匁迄、其余百目付銀拾五匁替

右之通御座候間、何卒御聞濟被成下、御用向被仰付被成下候様奉願上候、以上

江戸定飛脚

亥四月

仲間印

(印「江戸／定飛脚仲間／三度」)

一五 江戸定飛脚仲間賃金値増付口上書

乍憚口上

一 近年道中筋困窮弥増、諸雜用相嵩尚亦追、割増被仰出候_二付、左之通奉願上候

一六日限 金百兩_二付 質銀四拾五匁

但 金匁兩_六 質四匁 金五兩以上 質五匁
同五兩まで 同十兩まで

荷物匁貫目_二付 質銀五拾目

一七日限 金百兩_二付 質銀四拾目

但 金匁兩_六 質三匁六分 金五兩以上 質四匁五分
同五兩まで 同十兩まで

荷物匁貫目_二付 質銀四拾目

一八日限 金百兩_二付 質銀三拾目

但 金匁兩_六 質貳匁五分 金五兩以上 質三匁五分
同五兩まで 同十兩まで

荷物匁貫目_二付 質銀三拾目

一十日限 金百兩_二付 質銀貳拾目

但 金匁兩_六 質貳匁 金五兩以上 質貳匁五分
同五兩まで 同十兩まで

荷物匁貫目_二付 質銀八匁

但 匁歩銀、匁朱銀ハ右質銀倍増申請候

(貼紙墨書「来ル七日」)
右之通「来ル廿一日」當分之内御承知被成下候、且又相場金匁兩_二付 質銀六拾四匁_二而御勘定被成下候様奉願上候、以上

江戸定飛脚

(貼紙墨書「五」)
亥「四」月

仲間印

(印「江戸ノ定飛脚仲間ノ三度」)

一六 三道陸走会社質銀附

(1)

甲州府中迄

一六ノ日

金札百兩_二付 質十五匁

但掛目五十目迄、余者百目_二付 質銀三匁之割

五兩迄 三匁

十兩迄 四匁五分

廿兩迄 五匁五分

卅兩迄 六匁五分

五十兩迄

七匁五分

書狀老通

七分五厘

但掛目拾目迄、余者

三十目迄

壹匁

百目迄

貳匁

貳百目迄

三匁五分

四百目迄

四匁五分

六百目迄

六匁

八百目迄

七匁五分

壹千目迄

九匁

(2)

上州東

四九ノ日

西

一五六十ノ日

金札百兩ニ付

、賃十貳匁

但掛目前同斷、余者百目ニ付銀貳匁之割

五兩迄

貳匁五分

十兩迄

三匁五分

廿兩迄

四匁五分

翻刻飛脚関係摺物史料(一)(藤村)

卅兩迄

五匁五分

五十兩迄

六匁

荷物

三十目迄

八分

百目迄

壹匁

貳百目迄

貳匁

四百目迄

三匁

六百目迄

四匁

八百目迄

五匁

壹千目迄

六匁

(3)

同富岡、鬼石、小幡、七日市、吉井、八幡山、足利、大

間、

金札百兩ニ付

賃十五匁

但掛目前同斷、余者百目ニ付銀三匁之割

五兩迄

三匁

十兩迄

四匁五分

廿兩迄

五匁五分

二七九

卅兩迄

六匁五分

五十兩迄

七匁五分

荷物

三十目迄

壹匁壹分

百目迄

壹匁五分

貳百目迄

貳匁五分

四百目迄

三匁五分

六百目迄

五匁

八百目迄

六匁

壹ノ目迄

七匁

(4)

同秩父、下仁田、宮崎、一ノ宮、南蛇井、寄居

金札百兩ニ付

質十六匁

但掛目前同断、余者百目ニ付銀三匁之割

五兩迄

三匁

十兩迄

四匁五分

廿兩迄

五匁五分

卅兩迄

六匁五分

荷物

五十兩迄

八匁

三十目迄

壹匁壹分

百目迄

壹匁五分

貳百目迄

貳匁五分

四百目迄

三匁五分

六百目迄

五匁

八百目迄

六匁五分

壹ノ目迄

七匁五分

(5)

千住通宇都宮迄

二四七九ノ日

同 水戸下町迄

三八ノ日

金札百兩ニ付

質十貳匁

但掛目前同断、余者百目ニ付銀貳匁之割

五兩迄

貳匁五分

十兩迄

三匁五分

廿兩迄

四匁五分

卅兩迄

五匁五分

五十兩迄

六匁

荷物

三十目迄

八分

百目迄

匁匁五分

貳百目迄

貳匁五分

四百目迄

三匁五分

六百目迄

五匁

八百目迄

六匁五分

壹ノ目迄

七匁五分

上町行之分、右賃銀_五貳割まし之事

(6)

宇都宮先、岩代福嶋迄 二四七九ノ日

金札百兩ニ付

賃十貳匁

但掛目前同断、余者百目ニ付銀貳匁之割

五兩迄

貳匁五分

十兩迄

三匁五分

廿兩迄

四匁五分

卅兩迄

五匁五分

五十兩迄

六匁

荷物

三十目迄

匁匁貳分

百目迄

貳匁

貳百目迄

四匁

四百目迄

七匁

六百目迄

十匁

八百目迄

十三匁

壹ノ目迄

十六匁

(7)

福嶋先、仙台迄

二四七九ノ日

金札百兩ニ付

賃十五匁

但掛目前同断、余者百目ニ付銀三匁之割

五兩迄

三匁

十兩迄

四匁五分

廿兩迄

五匁五分

卅兩迄

六匁五分

五十兩迄

七匁五分

荷物

三十目迄 壹匁七分
百 目迄 三匁
貳百目迄 五匁
四百目迄 八匁
六百目迄 十貳匁
八百目迄 十六匁
壹ノ目迄 貳十匁

(8)

福嶋先、山形、米沢迄 二四七九ノ日

金札百兩ニ付 賃貳十匁

但掛目前同断、余者百目ニ付銀三匁之割

五兩迄 四匁
十兩迄 五匁五分
廿兩迄 七匁
卅兩迄 八匁五分
五十兩迄 十匁

荷物

三十目迄 貳匁
百 目迄 三匁五分
貳百目迄 六匁五分
四百目迄 十匁五分
六百目迄 十五匁
八百目迄 十九匁五分
壹ノ目迄 廿四匁

(9)

岩代白川通、若松迄

三ノ日

金札百兩ニ付 賃十五匁

但掛目五拾目迄、余者百目ニ付銀三匁之割

五兩迄 三匁
十兩迄 四匁五分
廿兩迄 五匁五分
卅兩迄 六匁五分
五十兩迄 七匁五分
書状壹通 壹匁壹分

但掛目拾目迄、余者

三十目迄

壹匁五分

百目迄

貳匁五分

貳百目迄

四匁五分

四百目迄

六匁五分

六百目迄

八匁五分

八百目迄

十貳匁五分

壹ノ目迄

十七匁

(10)

越後水原迄

三ノ日

同 長岡、三条迄

七ノ日

金札百兩ニ付

賃拾八匁

但掛目前同断、余者百目ニ付銀三匁之割

五兩迄

三匁五分

十兩迄

五匁

廿兩迄

六匁五分

卅兩迄

七匁五分

五十兩迄

九匁

書狀壹通

壹匁四分

但掛目拾目迄余者

三十目迄

貳匁

百目迄

三匁

貳百目迄

五匁

四百目迄

八匁五分

六百目迄

十貳匁

八百目迄

十六匁

壹ノ目迄

貳十匁

(11)

善光寺、通新瀉迄

八ノ日

仙台先、盛岡迄

五十ノ日

金札百兩ニ付

賃廿五匁

但掛目前同断、余者百目ニ付銀三匁之割

五兩迄

四匁五分

十兩迄

六匁五分

廿兩迄

八匁五分

卅兩迄

十匁五分

五十兩迄

十貳匁五分

書狀屯通

貳匁

但掛目拾目迄、余者

三十目迄

貳匁五分

百 目迄

三匁五分

貳百目迄

六匁

四百目迄

十匁五分

六百目迄

十六匁

八百目迄

廿匁匁五分

壹ノ目迄

廿七匁

(12)

盛岡先、弘前、箱館迄 五十ノ日

金札百匁ニ付

賃六十匁

但掛目前同断、余者百目ニ付銀六匁之割

五兩迄

十貳匁

十兩迄

十七匁

廿兩迄

廿貳匁

卅兩迄

廿五匁

五十兩迄

三十匁

書狀屯通

五匁

但掛目拾目迄、余者

三十目迄

六匁五分

百 目迄

九匁

貳百目迄

十四匁

四百目迄

廿匁匁

六百目迄

三十匁

八百目迄

四十匁

壹ノ目迄

五十匁

(13)

羽州酒田、大泉迄

二四七九ノ日

金札百匁ニ付

賃四十匁

但掛目前同断、余は百目ニ付銀五匁之割

五兩迄

八匁

十兩迄

十匁

廿兩迄

十貳匁

卅兩迄

十五匁

五十兩迄

貳十匁

書状沓通

四匁五分

但掛目拾目迄、余者

三十目迄

六匁

百目迄

八匁五分

貳百目迄

十三匁

四百目迄

十八匁

六百目迄

廿四匁

八百目迄

三十貳匁

沓ノ目迄

四十匁

(14)

水戸先、岩城平迄

三八ノ日

信州上田、善光寺迄

一六ノ日

金札百兩ニ付

賃十五匁

但掛目前同断、余は百目ニ付銀三匁之割

五兩迄

三匁

十兩迄

四匁五分

廿兩迄

五匁五分

卅兩迄

六匁五分

五十兩迄

七匁五分

書状沓通

沓ノ沓分

但掛目拾目迄、余者

三十目迄

沓匁五分

百目迄

貳匁五分

貳百目迄

四匁五分

四百目迄

六匁五分

六百目迄

九匁

八百目迄

十貳匁

沓ノ目迄

十五匁

(15)

平々先、中村辺、仙台賃之事

石之巻行、仙台賃_ニ荷物は五割まし、金銀札者倍賃

羽州久保田行、大泉賃_ニ荷物者三割まし、金銀札者五割

まし

(16)

一諸道具共賃銀之義、札五十兩以上者百兩之割合、荷物

貫目以上者沓貫目之割合ニ候事

一越後、羽州路并若松行荷物、毎年十月朔日より三月晦日迄式割増之事

書状尨通

百匁

一正金者札賃^正三割増、一分銀、朱銀者倍賃

百目迄

壹匁五分

一手形入状之義、高百兩^ニ付式^ニ匁替まし

二百目、

二匁五分

一長物、嵩物、手讓之箱類、三割まし

三百目、

二匁八分

一先拂賃者都^而一割増申受候事

四百目、

三匁五分

(17)

五百目、

四匁

右者先般賃銀附之内不引合之場所も有之、猶又改正仕候^ニ付、御承知之上不相変御用之程奉願上候

(3)

金銀は福嶋賃

明治四年未六月朔日ヨリ 瀬戸物町

山形、米沢行、福嶋^ヲ屈ちん、都^而宇都宮賃

三道陸走会社

金銀ハ福嶋賃五割まし

(4)

一七 定飛脚問屋会社賃銀附

同岩代福嶋迄

二四七九ノ日

(1)

金札百兩^ニ付

賃十二匁

賃銀附

(2)

但し上目同断、余ハ百目^ニ付三匁之割

二匁五分

奥州中道中字都宮迄 二四七九ノ日

五兩迄

三匁五分

荷物尨賃目^ニ付

七匁五分

十兩、

四匁五分

廿兩、

卅兩、

五匁五分

ノ余ハ百兩之割

荷物尅貫目ニ付

十六匁

書状尅通

二百文

百 目迄

二匁

二百目、

三匁六分

三百目、

五匁二分

四百目、

六匁八分

五百目、

八匁

ノ余ハ貫目之割

(5)

同陸前仙台迄

二四七九ノ日

金札百兩ニ付

賃十五匁

但し上目同断、余ハ百目ニ付三匁之割

五兩迄

三匁

十兩、

四匁

廿兩、

五匁

卅兩、

六匁

翻刻飛脚関係摺物史料(一) (藤村)

五十兩、

七匁五分

ノ余ハ百兩之割

荷物尅貫目ニ付

二十匁

書状尅通

二百文

百 目迄

二匁七分

二百目、

五匁

三百目、

六匁七分

四百目、

八匁二分

五百目、

十匁

ノ余ハ貫目之割

(6)

同陸中盛岡迄

五十ノ日

金札百兩ニ付

賃廿五匁

但し上目同断、余ハ百目ニ付三匁之割

五兩迄

四匁五分

十兩、

六匁五分

廿兩、

八匁五分

卅兩、

十匁五分

二八七

五十兩、 十二匁五分

ノ余ハ百兩之割

荷物尅貫目ニ付 廿八匁

書状尅通 三百五十文

百 目迄 三匁五分

二百目、 六匁

三百目、 八匁六分

四百目、 十一匁五分

五百目、 十四匁

ノ余ハ貫目之割

(7)

同陸奥ノ箱館迄 五十ノ日

金札百兩ニ付 賃六十匁

但し上目同断、余ハ百兩ニ付六匁之割

五兩迄 十二匁

十兩、 十七匁

廿兩、 廿二匁

卅兩、 廿七匁

五十兩、 三十匁

ノ余ハ百兩之割

荷物尅貫目ニ付 五十匁

書状尅通 五匁

百 目迄 七匁五分

二百目、 十二匁

三百目、 十六匁五分

四百目、 廿一匁

五百目、 廿五匁

ノ余ハ貫目之割

(8)

水戸道中下町迄 三八ノ日

金札百兩ニ付 賃十二匁

但し上目同断、余ハ百兩ニ付三匁之割

五兩迄 二匁五分

十兩、 三匁五分

廿兩、 四匁五分

卅兩、 五匁五分

五十兩、

六匁

ノ余ハ百兩之割

荷物尅貫目ニ付

七匁五分

書狀尅通

百文

百 目迄

尅匁五分

二百目、

二匁二分

三百目、

二匁八分

四百目、

三匁五分

五百目、

四匁

ノ余ハ貫目之割

(9)

同上町岩城平迄、夫々仙台賃 二八ノ日

金札百兩ニ付

賃十五匁

但し上目同断、余ハ百目ニ付三匁之割

五兩迄

三匁

十兩、

四匁

廿兩、

五匁

卅兩、

六匁

翻刻飛脚關係摺物史料(二)(藤村)

五十兩、

七匁五分

ノ余ハ百兩之割

荷物尅貫目ニ付

十五匁

書狀尅通

百五十文

百 目迄

二匁

二百目、

三匁六分

三百目、

五匁二分

四百目、

六匁八分

五百目、

七匁五分

ノ余ハ貫目之割

(10)

上州東

四九

西

一六五ノ日

金札百兩ニ付

賃十二匁

但し上目五十目迄、余ハ百目ニ付二匁之割

五兩迄

二匁

十兩、

二匁五分

廿兩、

三匁五分

二八九

卅兩、

四匁二分

五十兩、

六匁

メ余ハ百兩之割

五十兩、

七匁五分

荷物尅貫目ニ付

六匁

メ余ハ百兩之割

七匁五分

書狀尅通

百文

荷物尅貫目ニ付

七匁五分

百 目迄

尅匁

書狀尅通

百五十文

三百目、

二匁

百 目迄

尅匁七分

五百目、

三匁五分

三百目、

三匁

八百目、

五匁

五百目、

四匁七分

一ノ目、

六匁

八百目、

六匁五分

メ余ハ貫目之割

一ノ目、

七匁五分

(11)

同、秩父、下仁田、宮崎、一宮、南蛇井、富岡、鬼石、小

幡、七日市、吉井、八幡山、足利、大間、

金札百兩ニ付

質十五匁

但し掛目同断、余ハ百目ニ付二匁之割

五兩迄

二匁五分

十兩、

四匁

(12)

信州上田迄

一六ノ日

金札百兩ニ付

質十五匁

但し掛目同断、余ハ百目ニ付三匁之割

五兩迄

二匁五分

十兩、

四匁

五兩迄

三匁

十兩、

四匁五分

廿兩、

六匁

卅兩、

七匁五分

五十兩、

九匁

ノ余ハ百兩之割

荷物老貫目ニ付

二十匁

書状老通

二百五十文

百 目迄

三匁

二百目、

四匁八分

三百目、

六匁六分

四百目、

八匁四分

五百目、

十匁

ノ余ハ貫目之割

(15)

甲州府中迄

一六ノ日

金札百兩ニ付

賃十五匁

但し掛目同断、余ハ百目ニ付三匁之割

五兩迄

三匁

十兩、

四匁

廿兩、

五匁

卅兩、

六匁

五十兩、

七匁五分

ノ余ハ百兩之割

荷物老貫目ニ付

十匁

書状老通

百三十二文

百 目迄

二匁

三百目、

四匁

五百目、

六匁

八百目、

八匁

一ノ目、

十匁

ノ余ハ貫目之割

(16)

一正金は札賃五三割増、分銀一朱銀ハ倍増

一嵩物、長尺物、手薄箱は三割増

一大封御状之類ハ見斗、賃銀申受候事

一先拂賃は都而扈割増申受候事

(17)

右之通御承知之上、不相替御用向被 仰付可被下候様奉
願上候

定飛脚問屋

せともの町 会社 社^④

(印「東」定陸走会社/京)

一八 大坂屋茂兵衛他東海道、伊勢参宮道、中山道、善

光寺道、飛脚差立日(この項□は読不明)

(1) 東海道

江戸 二里 品川 半ニリ 川崎 半ニリ 六郷 わたし 神奈川 九リ 程ケ
谷 九リ 戸塚 三リ 藤沢 半ニリ 馬入 わたし 平塚 七リ 大磯 四リ
ユカ 小田原 八リ 箱根 八リ 御所 三島 半ニリ 沼津 半ニリ
原 六リ 吉原 三リ かわい川 てんり 川 蒲原 一リ 由
井 十二リ さつた 奥津 十二リ いはら川 江尻 廿七リ 府中 一
半 川 あへ 丸子 二リ うつのや 岡部 一リ 藤枝 八リ せと川
とうけ 廿九リ ちかわ

翻刻飛脚関係摺物史料(一)(藤村)

りた 島田 一リ 大井川 金谷 一リ 廿 日坂 廿九リ かも口と
かちわたり

掛川 二リ 袋井 一リ 見附 四リ 浜松 三リ 十リ 舞坂
十六リ 半ニリ 御所 白須賀 一リ 廿二リ 半ニリ

一リ 舟わた 新井 一リ 御所 赤坂 九リ 藤川 一リ 岡崎
吉田 二リ 半ニリ 百廿四間 御油 十六 半ニリ 桑名 三リ

三リ 池鯉鮒 三リ 鳴見 一リ 宮 七リ 七リ わたし 桑名 三リ
三十リ 四日市 二リ 石薬師 廿七 庄野 二リ 亀山 一リ 関 一リ

坂ノ下 二リ 土山 二リ 半ニリ まつの 水口 二リ 石部 二リ 半ニリ
半ニリ 草津 六リ 半ニリ 大津 京都 四十八リ 伏見 五十 淀 三リ 牧方 五

川 大坂

(2) ○伊勢参宮道

四日市 二リ 半ニリ 神戸 一リ 白子 一リ 上野 一リ 津 二
ニ 松坂 四 小俣 一リ 山田 六リ 外宮

(3) 中山道

江戸 二 板橋 七リ わたしの わらひ 十四リ 浦和 一リ 大ミ
や 二リ 上尾 三リ おけかわ 三リ かうのす 八リ 半ニリ くらかの 十九リ 高さき 卅一リ 板はな 卅

い 十リ 三 ふかや 廿九リ ほんぜう 四リ 半ニリ 板はな 卅

わ 十リ 三 ふかや 廿九リ ほんぜう 四リ 半ニリ 板はな 卅

い 十リ 三 ふかや 廿九リ ほんぜう 四リ 半ニリ 板はな 卅

わ 十リ 三 ふかや 廿九リ ほんぜう 四リ 半ニリ 板はな 卅

い 十リ 三 ふかや 廿九リ ほんぜう 四リ 半ニリ 板はな 卅

わ 十リ 三 ふかや 廿九リ ほんぜう 四リ 半ニリ 板はな 卅

い 十リ 三 ふかや 廿九リ ほんぜう 四リ 半ニリ 板はな 卅

わ 十リ 三 ふかや 廿九リ ほんぜう 四リ 半ニリ 板はな 卅

安中^ニ 松井田^ニ 御^よ關所^{かんじょ} 坂本^ニ 十六^{じゅうろく} とうけい かるい
 沢^ニ くつかけ^ニ 追わけ^ニ おたい^ニ 岩村田^ニ
 半 塩な^ニ 三^{さん} やわた^ニ 十六^{じゅうろく} とうげ ち月^ニ 十六^{じゅうろく} とうげ
 あした^ニ 長く^ニ 和田^ニ 五^ご うけ 下の^ニ すハ^ニ 塩
 しり^ニ せば^ニ 三十^{さんじゅう} 本山^ニ にへ川^ニ 半^{はん} 御^ご ならい^ニ
 半 やふ原^ニ 宮の^ニ こし^ニ 半^{はん} 御^ご 福しま^ニ 半^{はん} 上ヶ松^ニ
 九 すハ^ニ 三十^{さんじゅう} のしり^ニ 半^{はん} みとの^ニ 半^{はん} つまこ^ニ ま
 こめ^ニ 五^ご おち合^ニ 中津川^ニ 六^{ろく} 大井^ニ 三^{さん} 大く^ニ て^ニ
 細くて^ニ 三^{さん} みたけ^ニ ふしミ^ニ 半^{はん} 大田^ニ 二^に うぬま^ニ 四^よ
 かのう^ニ 半^{はん} かうど^ニ 七^{しち} 見あぢ^ニ 八^{はち} 赤坂^ニ 十三^{じゅうさん} たる井
 半^{はん} せきが原^ニ 今須^ニ かしハ原^ニ 半^{はん} さめかい^ニ
 ばんば^ニ 十^{じゅう} とうげ 鳥本^ニ 半^{はん} 高宮^ニ ちち川^ニ 半^{はん} ちちわ
 りた 武佐^ニ 半^{はん} 安^{あん} 川^{かわ} ちわたり もり山^ニ 三^{さん} 草津^ニ 三^{さん} 大津^ニ 是^こ 上^{かみ} 同^{どう} 所^{しよ}
 (4) ○善光寺道
 おいわけ^ニ 三^{さん} 小むろ^ニ 半^{はん} たなか^ニ 半^{はん} うんの^ニ 二^に うあた
 三 さかき^ニ 半^{はん} とくら^ニ 半^{はん} やしろ^ニ おいわけ^ニ 二^に た
 んば嶋^ニ せんこうじ^ニ 是^こ 上行^{かみぎやう} たんは嶋^ニ おいわけ^ニ

いなり山^ニ おみ^ニ 十^{じゅう} あおやぎ^ニ あいた^ニ 十^{じゅう} かりや
 はら^ニ 八^{はち} まつもと^ニ 半^{はん} むらい^ニ 三^{さん} せば^ニ 山道^ニ 分^{ぶん}

(5) 飛脚差立日

一早便 毎月十八斎

但シ一四八二六九 夜四ツ時限飛脚差立

一正月元日相休、二日ヨリ差立候

一正月、七月、十七日ニも差立候

一五月ハ七日ニもさし立申候

一九月九日相休、十日差立候

一十二月晦日まで差立候

一常便 毎月九斎

但シ二六九 夜四ツ時限差立候

金銀、御荷物、御状等

一正月二日相休、四日ノ差立候

一正月十六日相休、十七日差立候

一五月六日相休、七日差立候

一七月十二日、十六日相休、十七日差立

一九月九日休、十日差立候

一十二月仕舞飛脚廿六日限

早便常便共休日三五七十

江戸日本橋万町定飛脚問屋

大坂屋茂兵衛

京都境町二条上ル町

同店

大坂内平野町浜同店

江戸屋平右衛門

相州藤沢宿同店

柏屋四郎兵衛

一九 江戸順番定飛脚中賃増願書

(1)

乍恐以書付御願奉申上候

近年道中筋人馬差支、継立方不捗取、尚又諸色格外高直
ニ相成、一統難渋仕候ニ付、此度左之通賃増御願奉申上
候、御承知之上御用向被仰付候様奉希候

(2)

別仕立御状沓通

一三日半限

賃金拾沓兩

一四日限

同金八兩

但シ掛目三百目迄、其餘百目ニ付

一五日限

賃金六兩

一六日限

同金四兩

但シ掛目三百目迄、其餘百目ニ付

(3)

正六便

一御状沓通ニ付

賃金沓朱

但シ掛目拾匁迄

其金拾匁ニ付

同四百文之割

一金百兩ニ付

同金沓兩沓歩

但シ金子入々三兩入迄

同七百文

其金金沓兩ニ付

同百五十文

拾兩以上ハ沓兩ニ付

同百文

右は封シ金にてハ御請負難仕、見出シ金にて御渡シ可被

下候、道中筋届金ハ御請負不申候事

(4)

早便

一御状_二沓通_一付

賃貳百六拾四文

但シ掛目貳拾目迄

一金百兩_二付

同金貳步

其餘大封状五拾目迄

同三百五拾文

但シ金子入_レ三兩入迄

同四百五拾文

一御荷物

同六貫五百文

其餘_二沓兩_一付

同八拾文がへ

沓貫目_二付

拾兩以上_二沓兩_一付

同五拾文がへ

但シ掛目百 目迄

同六百五拾文

(6)

貳百目迄

同_二沓_一ノ三百文

常便

三百目迄

同_二沓_一ノ九百五拾文

賃百文

一金百兩_二付

同金貳步_二沓_一朱

一御状_二沓通_一付

賃百文

但シ金子入_レ三兩入迄

同五百五拾文

其餘大封状五拾目迄

同百五拾文

其餘金_二沓兩_一付

同百文がへ

一御荷物

同貳貫五百文

拾兩以上_二沓兩_一付

同六拾四文がへ

沓貫目_二付

同金_二沓_一步_二沓_一朱

(5)

中便

一御状_二沓通_一付

賃百五拾文

一金百兩_二付

同金_二沓_一步_二沓_一朱

但シ金子入_レ三兩入迄

同三百五拾文

其餘金_二沓兩_一付

同五拾文

拾兩以上金沓兩ニ付

同三拾貳文ガヘ

慶応三年

(7)

江州路、勢州路、尾州宮駅迄

正六便リ

一御状沓通ニ付

賃貳百五拾文

一早便同

同百三拾貳文

一御荷物

同三貫六百元

沓貫目ニ付

一金百兩ニ付

同金沓歩

但シ金子入ル三兩入迄

同三百文ガヘ

其餘金沓兩ニ付

同五拾文ガヘ

(8)

近頃不用ニ付、廻り之者差出し不申候、金子之儀ハたと

へ少々にても、届ケ之者へ御渡不被下、店方ニ申齋限り

御持參可被下候様、兼而御断申上置候

金相場沓兩ニ付錢七貫貳百文ニテ御拂可被下候

手形入御証文入之儀は、何便ニ不限定賃之外五百文申請

候

卯四月

江戸順番定飛脚中㊦

(印「組ノ定飛脚ノ合」)

(6)

㊦㊧三条通堺町角

江戸屋新三郎

二〇 江戸順番定飛脚間屋越後屋、奈良物屋賃錢并出

日書

賃錢并出日書

一正六日限

御状沓通目方拾匁迄賃四百文

其余拾匁ニ付三百文之割

御状沓通賃貳百六拾四文

一本六日限

大封御状三百五拾文

但し紙包類目方貳百目迄賃八百六拾八文

荷物沓貫目ニ付賃四貫三百貳拾八文

御状沓通賃貳百文

一本七日限

大封御状貳百五拾文

但し紙包類目方貳百目迄賃五百貳拾文

荷物老貫目ニ付貲貳貫五百文

御状老通貲百三拾貳文

一本八日限 大封御状百六拾四文

但し紙包類目方式百目迄貲四百六拾文

荷物老貫目ニ付貲貳貫貳百八拾文

御状老通貲百文

一本十日限 大封御状百三拾貳文

但し紙包類目方式百目迄貲三百八拾四文

荷物老貫目ニ付貲老貫九百貳拾文

出日毎月二五八ノ日

但休日正月十五日、三月二日、五月五日、九月八日

仕舞便り

七月十一日限、十二月廿五日限、小ノ月廿四日限

新町通二条上ル

江戸順番

越後屋孫右衛門

定飛脚問屋

奈良物屋三右衛門



二一 大阪両替手形便覧、令飛脚組合

(1)

(破損) 年卯正月改之、歳々相しらべ申候、或ハ別家ニあらざといへども同家号の分同所に加之

(2)

大阪両替手形便覧 次第不同

(3)

書林 大阪心齋橋南久太郎町 河内屋宗兵衛

摂州灘神戸浦 備前屋吉兵衛

(4)

今橋老丁目 天王寺や五兵衛

同 老丁目 忠兵衛

梶木町淀屋橋 伊右衛門

西横堀筋置橋 弥七

天満又次良町 長次郎

新町橋西詰 利助

堂嶋新地中一丁目 喜三郎

土佐堀一丁目 喜兵衛

今橋せんたんの木	、	六左衛門	、	内本町太郎右衛門町	、	新兵衛
御池通一丁目	、	弥右衛門	、	道修町一丁目	、	佐兵衛
江戸堀三丁目	、	四郎兵衛	、	木挽町南町	、	善左衛門
梶木町	、	儀右衛門	、	本伏見坂町	、	卯兵衛
初瀬町	、	嘉右衛門	、	御前町	、	与兵衛
南木綿や町	、	七兵衛	、	堂嶋うら町	、	伝兵衛
今橋壱丁目	平野屋五兵衛	仁兵衛	、	長堀高橋町	、	次助
四軒町	、	又右衛門	、	北堀江式丁目	、	新兵衛
今橋壱丁目	、	孫兵衛	、	佐渡嶋町	、	卯兵衛
同 式丁目	、	新兵衛	、	難波新地二丁目	、	猪兵衛
本町式丁目	、	長兵衛	、	今橋式丁目	鴻池屋善右衛門	善五郎
堀江あらき東	、	平兵衛	、	同 町	、	庄兵衛
道とん堀戎橋	、	市郎兵衛	、	同 町	、	徳兵衛
谷町壱丁目	、	善右衛門	、	同淀屋橋	、	伊兵衛
心斎橋周防町	、	八郎兵衛	、	同 町	、	市兵衛
同大宝寺町	、	佐兵衛	、	大川町淀や橋	、	与三兵衛
鈴木町	、	四郎五郎	、	梶木町	、	新兵衛
江戸堀三丁目	、		、			

吉左衛門町	、	和助	平野町一丁目	、	利兵衛
ごふく町	、	忠助	安土町一丁目	、	弥三郎
内平野町貳丁目	米	屋平右衛門	北堀江三丁目	、	弥吉
平野町貳丁目	、	喜兵衛	玉水町	加嶋屋重郎兵衛	
内平野町二丁目	、	長兵衛	船町	、	作五郎
尼ヶさき町	、	伊太郎	玉水町	、	安兵衛
内平野町	、	吉右衛門	京橋四丁目	、	久七
瓦町貳丁目	、	太兵衛	ひこばし北詰	、	又兵衛
やり屋町	、	三郎兵衛	梶木町	、	与一兵衛
富嶋貳丁目	、	保兵衛	同町	、	市太郎
天満老松町	、	清七	北浜御霊筋西	、	新七
安土町貳丁目	炭	屋安兵衛	斎藤町	、	新六
瓦町東堀り	、	善五郎	ひこばし北詰	、	与兵衛
同町	、	五郎右衛門	今橋せんだんの木	河内や勘四郎	
内平野町二丁目	、	五郎兵衛	津□西之町 (磯垣・村カ)	、	平右衛門
平野町一丁目	、	彦五郎	新山山本町	、	徳三郎
本町三丁目	、	忠助	安どうじ町筋谷町	、	喜兵衛
淡路町二丁目	、	武兵衛	かうや町	、	新太郎

天満小嶋町	、	九兵衛	南久太郎町四丁目	、	市兵衛
津村中之町	、	太三郎	宗右衛門町	、	徳松
上ふくしま村	、	伝右衛門	助右衛門町	、	和助
道修町五丁目	、	市郎兵衛	びんご町二丁目	、	錢屋權兵衛
谷町三丁目	、	治助	堺すじしほ町	、	弥助
北平野町十一丁目	、	利兵衛	嶋之内石灰町	、	佐兵衛
宗右衛門町	、	猪之助	今ばし一丁目	、	兵五郎
御池通り貳丁目	、	市郎兵衛	ひらの町一丁目	、	儀兵衛
北たに町	、	兵助	高津坂之下	、	勘兵衛
あんどうじ町貳丁目	、	市兵衛	松や町すじ九ノ介橋	、	清兵衛
嶋町ほねや町角	大黒屋源兵衛		阿んどうし町二丁目	、	治兵衛
谷町貳丁目	、	喜兵衛	順慶町三丁目	、	嘉兵衛
南久宝寺町四丁め	、	伊兵衛	道とん堀ひの上	、	庄蔵
長堀茂左衛門橋	、	利兵衛	のうにんはし	、	卯兵衛
高らい橋三丁目	油屋彦三郎		安土町壱丁目	、	忠兵衛
上人町	、	治兵衛	心才橋すほう町	、	市兵衛
同町	、	善兵衛	安土町さかい筋	、	清右衛門
天満又次郎町	、	石松	阿へぢ町心才橋	、	市兵衛

米屋町	、	太助	天満九丁目	、	伊兵衛
玉造ねぎ町	、	猪兵衛	同町	、	太兵衛
七郎右衛門二丁目	、	伝蔵	天神橋南詰	、	文四郎
油屋三丁目	、	宇之助	みなとはし	、	三右衛門
ひょうたん町	、	喜兵衛	天満柴や町	、	藤兵衛
立慶町	、	八兵衛	嶋之内石炭町	、	宇兵衛
北久太郎町三丁目	近江屋	富太郎	天満十丁目すし	、	宗兵衛
平野町貳丁目	、	弥助	同鈴鹿町	、	甚右衛門
北久太郎町二丁目	、	卯八	玉造岡本町	、	市郎兵衛
京橋三丁目	、	庄三郎	吉左衛門町	、	善兵衛
同六丁目	、	長兵衛	北堀江三丁目	、	金三郎
曾根新地一丁目	、	万助	宗右衛門町	、	半兵衛
百くへん町	、	勘兵衛	北久太郎町四丁目	、	まつや伊兵衛
橋通り三丁目	、	平兵衛	さつま堀下ノはし	、	彦三郎
あはぎ海部堀	虎屋	清兵衛	江戸はり大目橋	みなとや大助	
平野町二丁目	、	弥助	さつま堀中ノはし	、	利助
ひょうたん町	、	治助	南堀江五丁目	、	太七
西国橋東詰	綿屋市郎兵衛		玉つくり橋北へ	、	長七

くろ金橋南	、	文助
京町堀五丁目	、	弥兵衛
新ひらの町	、	新助
新多びす町	、	万兵衛
天満十丁目	、	庄兵衛
北堀江貳丁目	、	利助
同町	、	市兵衛
同五丁目	、	忠兵衛
御池通り三丁目	、	伊助
海部堀中之橋	、	中屋八兵衛
かつを座	、	安兵衛
ざこば	、	大津屋彦右衛門
新天満橋西	、	伊兵衛
ざこば町	、	彦兵衛
茶染屋町	、	利三郎
薩摩堀納や町	、	吉兵衛
南渡辺町	、	嘉兵衛
ざこば	、	大庭や治郎右衛門

(6)

同町	、	市兵衛
同町	、	甚六
船町	、	助松や忠兵衛
永代浜東	、	与兵衛
同町	、	伊右衛門
曾根崎村	、	武兵衛
永代浜	、	孫兵衛
瓦町貳丁目	、	川崎や三右衛門
南堀江貳丁目	、	善兵衛
立慶町	、	平兵衛
京町堀貳丁目	、	津国や仁兵衛
天満つの国町	、	清次郎
安次川北一丁目	、	喜兵衛
内ほねや町	、	太兵衛
道とんほり九郎右衛門丁	、	九兵衛
さつまほり下ノ橋	、	大和屋権次郎
高きや橋南詰	、	嘉助
日本はし南詰	、	嘉右衛門

順慶町五丁目	利右衛門	常安うら町	紙屋佐兵衛
すゞき町	利兵衛	道頓ほり黒金橋	吉兵衛
天満又次郎町	市右衛門	北ノ新地三丁目	利兵衛
江戸ほり四丁目	芳兵衛	天満てんやく町	与兵衛
かめ井町	万兵衛	宗右衛門町	吉兵衛
日本橋一丁目	小三郎	阿へち町一丁目	海部屋伝右衛門
佐渡嶋町	佐兵衛	同 町	新兵衛
南かさや町	三郎兵衛	安次川式丁目	豊嶋や弥五兵衛
きくや町	利助	同北壱丁目	久兵衛
立慶町	嘉兵衛	新天満町	嘉兵衛
御池通一丁目	<small>(破損)</small> 衛	天満しんぼ町	丹波や藤兵衛
吉左衛門町	<small>(破損)</small> 兵右衛門	天満東寺町	文助
本京はし町	喜兵衛	同棕橋町	利兵衛
弥兵衛町ほねや町	升屋藤兵衛	さいとう町	しまや理右衛門
天満九丁目	利助	北久宝寺町三丁目	庄兵衛
南久太郎町堺スシ	伝兵衛	布屋町	伊勢や藤四郎
順慶町四丁目	新兵衛	相生橋東詰	利兵衛
		京橋四丁目	久兵衛

元伏見坂町	、	平	藏	南渡辺町	、	源兵衛
すほう町	、	庄	助	新町橋東へ	、	忠左衛門
久左衛門町	、	忠兵衛		京橋四丁目	、	忠藏
なには橋北詰	今宮や重	藏		ならや町	、	五郎兵衛
御靈筋阿へじ町	、	忠藏		いこま町	、	久兵衛
堂嶋北中町	、	五兵衛		日本橋一丁目	、	七兵衛
なには橋北詰	丸屋市兵衛			安次川橋南詰	鳥嶋や友次郎	
北ノ新地二丁目	、	勘兵衛		嶋之内石灰町	木津や市兵衛	
堂しま永来町	、	与兵衛		あわはし町	、	唯七
ほりへあらきまへ	天野や平兵衛			堺すしすほう町	国分や弥兵衛	
船町はし西詰	俵屋太助			南かさや町	、	吉兵衛
大豆葉町	、	治兵衛		高津鳥居すし	木綿や五郎兵衛	
京町堀一丁目	、	宗七		天満たつた町	、	次郎兵衛
すゞき町	大和田や善兵衛			長町四丁目	山家や勘兵衛	
尼がさき町	らくさや熊藏			江戸堀四丁目	、	長兵衛
今橋心才はし	、	宗十郎		塩町三丁目	石灰や藤兵衛	
本町松や町南	羽山屋彦兵衛			谷町のう人橋	吉野や五兵衛	
米や町ざまの前	堺屋善兵衛			久左衛門町	、	清兵衛

(7)

大手すじ	いづみや利兵衛	京はし六丁目	しなのや善助
尼ヶ崎町二丁目	、 与助	岡やま町	岡田や武兵衛
常珍町	いづみや□右衛門	のう人橋松や町	三文じや伊右衛門
四軒町	、 七兵衛	北ノ新地三丁目	金田や権兵衛
西高津町	、 金兵衛	九條大渡し向ひ	伝法や卯右衛門
西高津新地七丁め	、 利兵衛	同 町	、 太七
北堀江四丁目	、 源三郎	〔破損〕 嶋白子しま町	布や甚九郎
立売堀西ノ町	、 市兵衛	内両がへ町	、 九兵衛
御池通四丁目	、 林兵衛	孫左衛門町	、 万兵衛
橋通り四丁目	、 為三郎	さいとう町	絹屋宇兵衛
御池通式丁目	、 市右衛門	越中橋北かへ東	政田や弥蔵
堀江くろ金橋□	〔破損〕 □まのや彦太郎	常安町	、 安兵衛
ばくろう町心才橋	谷屋清兵衛	ざこば茂左衛門橋	荒物や源兵衛
順慶町井池東	亀屋伊兵衛	天満十丁目	、 六兵衛
よしや町	、 七兵衛	おかやま町	、 嘉兵衛
米や町心さいはし西	今つや清七	ざこば茂左衛門橋	さつまや宗兵衛
天ま大工町	尼崎や弥兵衛	江戸ぼりけんさい橋	足袋屋藤兵衛
天満掠橋町	、 宇吉		

本町はし東詰町
 順慶町井戸辻西
 しとみ橋南詰
 江戸ぼり南一丁目
 江戸ぼり大め橋
 孫左衛門町
 長町七丁目
 御池通五丁目
 新天満町
 南安治川一丁目
 常安橋北詰
 松や町近江町
 心さいはし東
 北がはや町一丁目
 (破損)
 □けんや
 (破損)
 □なこし町
 備後町せんだんノ木

最上屋善兵衛
 備前や兵右衛門
 とばや善兵衛
 竹原や文助
 池だや嘉助
 、武兵衛
 、与(説不明)
 高岡や勘右衛門
 阿こや伊兵衛
 (説不明)
 □や長兵衛
 (破損)
 □や弥太郎
 (破損)
 □右衛門
 、治兵衛
 、又兵衛
 、徳兵衛
 、平兵衛
 加々屋六郎兵衛

阿ハち町心才橋
 立売堀南うら丁
 海部はり
 北ノ新地貳丁目
 住吉屋町
 北ノ新地二丁目
 安治川南三丁目
 天満北こわた町
 同南もり町
 江戸ぼり三丁目
 長ほりうはしま丁
 尼崎町一丁目
 内本町上三丁目
 久左衛門町
 京はし四丁目
 江戸堀五丁目
 (破損)
 南□町

、卯兵衛
 、安兵衛
 、惣十郎
 岡もとやいく
 、太助
 今津や権兵衛
 小堀屋卯之松
 尼屋武兵衛
 、武兵衛
 紀伊国や利兵衛
 今村や儀助
 中嶋や金蔵
 、卯兵衛
 、庄兵衛
 播磨屋新兵衛
 、勘兵衛
 、忠五郎

(ハカ)

常三郎

京町四丁目	潮崎や嘉兵衛	天満ひの上町	袴屋常七
堂嶋新地北町	大坂や佐兵衛	安治川上一丁目	桑名や久右衛門
天満天神筋町	藤兵衛	京町堀一丁目	明石や幸兵衛
長町六丁目	吉兵衛	北はりへ二丁目	藤二郎
順慶町三丁目	治兵衛	〔破損〕 □本橋二丁目	利助
にし高津町	小西や孫兵衛	〔破損〕 □満空心町	八百や亀松
内本町上三丁目	分銅や新左衛門	左渡しま町	新蔵
堂嶋新地一丁目	京屋安右衛門	宗右衛門町	榎並や仁兵衛
〔破損〕 □中式丁目	卯兵衛	中津町	藤八
〔破損〕 □かへらや町	惣右衛門	江戸ほり三丁目	藤屋新之助
内あんどうし町	七兵衛	同 式丁目	越後や孫市
はつせ町	辰巳や権兵衛	天満十丁目	ゑびや嘉七
九郎右衛門町	儀兵衛	同 今井町	鹿嶋や八兵衛
そねさき村	桜井や吉兵衛	北ノ新地二丁目	鼈甲や弥七
てしま町	新屋利兵衛	内本町橋詰町	扇や卯兵衛
堂嶋中三丁目	伏見や喜兵衛	天満地下町	姫路や吉郎兵衛
同 中式丁目	亀次郎	かうらい橋三丁目	三井元之助
天満空心町	山崎や利兵衛	順慶町西横堀	塚屋重兵衛

米や町心斎橋
平野町二丁目
同 町
過書町二丁目
かうじ町
よしや町
立慶町
西高津町
ひょうたん町
北ひらの町六丁目
長町八丁目
かしはら町
中津町
さつま堀東町
順慶町四丁目
御池通り一丁目
よしはら町
京はし三丁目

、 武兵衛
絆 屋善左衛門
、 太四郎
高 地松次郎
鱗形や与兵衛
山口や庄兵衛
、 安兵衛
、 藤 助
嵯峨や弥右衛門
秋田や仁右衛門
若江や喜三郎
奈良芋や十兵衛
、 喜兵衛
三津や久兵衛
田中や藤兵衛
木内や吉兵衛
、 長兵衛
伊賀や儀兵衛

大川町
御池通貳丁目
大ほうじ町
北ひらの町八丁目
てしま町
順慶町五丁目
北堀江二丁目
油町三丁目
ひょうたん町
御池通り二丁目
北ひら^(破損)町七丁目
本町三丁目
からもの町四丁目
油町三丁目
山さき町
内本町
上な^(破損)□バ町

天満や卯兵衛
森田や政次郎
伊丹や伊兵衛
種 屋佐兵衛
石見や忠兵衛
金 屋忠兵衛
、 次兵衛
柏 屋平 八
広嶋や忠兵衛
角倉や弥三兵衛
中村や善左衛門
岸部や庄兵衛
小嶋や安兵衛
山城や平兵衛
淡路や平兵衛
辻 屋孫兵衛
山田屋弥右衛門

御池通り五丁め

荒本や六郎右衛門

天満かわち町

野口や治兵衛

堂嶋弥左衛門町

徳嶋や九兵衛

(9)

右両替屋取引之分、有増を書記し申候、尤此外ニ小銭屋
之分數多御座候得共、是にしるし不申候、以上

(10)

(金千両箱、秤、丁銀拾貫目箱などの画あり、略す)

(11)

令 飛脚組合

(12)

兵庫うをのたな町

山中熊右衛門

同 薬師のまへ町

山中由兵衛

同 み 町

(被掛)

山中藤兵衛

神戸西の町

山中吉兵衛

みかげ西の町

山中安次郎

西宮ゑひすまへ

山中平八

(1)

二三 令米飛脚出所、大阪両替屋独案内

尼ヶ崎つき地

山中幸助

明石東樽屋町

山中勘兵衛

同 しば屋町

山中兵蔵

大坂堂嶋渡辺橋北詰

山中儀兵衛

(2)

令 米飛脚出所

尼ヶ崎

土佐屋幸助

鳴尾

江嶋屋久七

今津

小倉屋安兵衛

西宮

松本屋平八

魚崎

名田屋幸右衛門

御影

戸屋増次郎

新在家

上田屋徳次郎

神戸

備前屋吉兵衛

兵庫

石屋藤兵衛

(3)

同 同 明石 西岡 本庄 高砂 加古川 姫路 三木 市場 小野 大つ 初瀬 北条 池田 伊丹 道場

柏屋与 助 渡海屋彦兵衛 升屋勘兵衛 油屋吉兵衛 米屋伊兵衛 餅屋久兵衛 辰巳屋茂兵衛 鍵屋藤五郎 綿屋治右衛門 加東屋喜右衛門 荒物屋伊之助 木綿屋吉兵衛 (註不明) □右衛門 広原屋久兵衛 丹後屋仙吉 久代屋清助 播磨屋太兵衛

(7)

(6)

(5)

三田 堺 同 佐野 芥川 大阪堂島浜 大阪両替屋独案内 今橋一丁目 かじ木町 七郎右衛門町二丁目 かじ木町 過書町 藤右衛門町 同 丁 今橋一丁目 四けん町

山中屋伝兵衛 和泉屋利兵衛 和泉屋清兵衛 高野屋善右衛門 升屋九兵衛 柏屋藤松 天王寺屋五兵衛 同 伊右衛門 同 弥七 同 儀助 同 忠次郎 同 利助 同 宇兵衛 平野屋五兵衛 同 仁兵衛

今橋二丁目	同	孫兵衛
北浜一丁目	同	平九郎
かざりや丁	同	八郎兵衛
今ばし二丁目	鴻池善右衛門	
同 丁	善五郎	
いづえ町	同	新十郎
尼が崎町二丁目	同	猶藏
今ばし二丁目	同	庄兵衛
同 丁	同	篤兵衛
同 丁	同	伊助
尼崎町二丁目	同	市兵衛
同 丁	同	重太郎
いづみ町	同	彦三郎
大川町	同	与三吉
玉水丁	加嶋屋久右衛門	
同 丁	同	十郎兵衛
大川町	同	作兵衛
舟町	同	作五郎

(8)

尼が崎町一丁目	同	作次郎
玉水丁	同	安兵衛
中せんバ丁	同	源兵衛
ひごしま丁	同	亦兵衛
内平の町二丁目	米屋平太郎	
尼が崎町二丁目	同	伊太郎
内平の町二丁目	同	長兵衛
平の町一丁目	同	喜兵衛
瓦町二丁目	同	多兵衛
近江丁	同	喜代松
あへじ町二丁目	同	茂兵衛
瓦町二丁目	米屋分兵衛	
淡路町一丁目	同	恒七
京ばし四丁目	同	三十郎
材木町	同	武右衛門
堂じま中一丁目	同	与三吉
安土町二丁目	炭屋安兵衛	
瓦町一丁目	同	善五郎

平の町一丁目	同	彦五郎
同 三丁目	同	萬兵衛
北はりへ三丁目	同	弥吉郎
本町三丁目	同	源 蔵
北久太一丁目	近江屋半左衛門	
同 二丁目	同 宇 八	
同 三丁目	同 専 助	
同 丁	同 与 七	
立うりぼり	同 休兵衛	
同 四丁目	同 権兵衛	
そね崎新地壱丁目	同 万 助	
中のしま	升 屋平右衛門	
南久太二丁目	同 伝兵衛	
天満市のかへ	同 利 助	
かうらいばし一丁目	同 庄右衛門	
同 三丁目	油 屋竹之助	
上人町	同 治兵衛	
同 町	同 善兵衛	

(9)

びんど町一丁目	銭 屋権右衛門
安土町一丁目	同 忠兵衛
同 二丁目	同 清 吉
石灰町	同 左兵衛
びんど町四丁目	同 左市郎
石灰町	同 市兵衛
本町一丁目	同 宗兵衛
塩町二丁目	同 小四郎
安どうじ町三丁目	同 庄兵衛
老松丁	綿 屋き く
天満九丁目	同 多兵衛
摂津国丁	同 宗兵衛
湊ばし丁	同 三十郎
吉左衛門丁	綿 屋勝三郎
上なんバ丁	同 義三郎
油町一丁目	国分屋弥兵衛
南笠や町	同 吉兵衛
西信町	布 屋甚九郎

北久太二丁目

同 善兵衛

宗右衛門丁

同 吉兵衛

舟町

同 半兵衛

元伏見坂町

同 平藏

納や町

飭屋六兵衛

尼が崎町一丁目

河内屋勘四郎

車屋

同 勘兵衛

内平の町

同 又右衛門

高島町

同 伊太郎

堂しま

播磨屋仁兵衛

津村南ノ丁

伊勢屋利兵衛

南はりへ四丁目

同 忠兵衛

元伏見坂町

同 平藏

ざこば町

柴屋孫四郎

長堀橋本町

湊屋善右衛門

大和丁

同 六兵衛

かいふぼり

天満屋勝右衛門

ごふく町

節屋庄右衛門

内本町一丁目

同 徳兵衛

江戸堀二丁目

同 長藏

天満十一丁目

同 半兵衛

上福しま

木綿屋源兵衛

新天満町

大津屋伊兵衛

日本ばし五丁目

同 喜兵衛

長はりとんだや丁

同 茂兵衛

弥左衛門丁

塩屋儀兵衛

阿ハじ丁一丁目

同 新助

中ノしま

同 利兵衛

順けい町五丁目

大和屋利右衛門

長町七丁目

山家屋松之助

弥左衛門丁

同 忠次郎

大川町

山家屋勘兵衛

東京ばし丁

同 喜兵衛

南なべや町

袴屋嘉助

常安うら町

加ミ屋佐兵衛

吉野屋久右衛門

南本町四丁目	同 源四郎
南堀江四丁目	加賀屋林兵衛
豆葉町	堺屋次郎兵衛
立慶町	同 利兵衛
木津川町	飭屋次郎右衛門
江戸堀三丁目	竹原和助
瓦町二丁目	川崎屋三右衛門
同 丁	同 義兵衛
上人町	越後屋善太郎
よしや町	同 長七
ぶんど町	泉屋盛六
立うりぼり西ノ丁	同 三次郎
天満砂原やしき	同 利兵衛
京ばし六丁目	醍醐屋八左衛門
江戸堀二丁目	大塚屋源右衛門
安とうじ町五丁目	大もんじや弥兵衛
山田町	大庭屋市兵衛
淡路町	木津屋唯七

(11)

寺しま丁	木地屋伊右衛門
伝馬町	木屋九兵衛
尼崎町一丁目	竹川彦太郎
北久太四丁目	松屋伊兵衛
塩町三丁目	小橋屋彦九郎
農人町	山本屋伊右衛門
南久宝五丁目	谷屋清兵衛
同 三丁目	丸屋伊兵衛
堂じま舟大工町	鳥羽屋善兵衛
安とうじ町二丁目	丹波屋忠兵衛
石津丁	阿波屋宇兵衛
南浜町	灰屋平右衛門
南本町二丁目	紀ノ国屋庄三郎
内本町上手	分銅屋新右衛門
南間や町	亀屋善兵衛
舟大工町	難波屋太吉
津村西ノ丁	毛馬屋茂三郎
安とうじ橋二丁目	小堀屋久兵衛

桑名町

山口屋庄 兵衛

高津五左衛門丁

榎並屋庄 藏

北浜二丁目

長浜屋伊太郎

新あへじ町

津国屋忠 藏

常安町

塩飽屋清右衛門

北久太二丁目

都倉屋与兵衛

梶木町心斎ばし

百足屋孫兵衛

瓦町一丁目

鉄屋庄右衛門

平の町一丁目

柴屋長 藏

高らいばし一丁目

三井八郎右衛門

天満十一丁目

福田屋太右衛門

同 三丁目

三井元之助

北新地二丁目

岡本屋百之助

よしのや丁

辰巳屋久左衛門

高らいばし一丁目

嶋田八郎右衛門

長はり

住友甚兵衛

谷町三丁目

吉村屋喜兵衛

かじ木町

宗十郎

御堂前丁

荒物屋久左衛門

玉水丁

嶋屋市兵衛

西高津丁

柏屋太郎兵衛

平の町一丁目

茨木屋安右衛門

安治川南一丁目

井筒屋彦四郎

過書町

塩屋市之助

宗右衛門丁

明石屋太七

長はり

ざこ屋三郎兵衛

平の町三丁目

浅田新 吉

舟町

助松屋忠兵衛

内本橋詰町

最上屋善兵衛

長はり

蒲嶋屋次郎兵衛

谷町三丁目

灰吹屋藤四郎

豆葉町

貝足屋七右衛門

うつば

井上屋宇十郎

今ばし二丁目

高木屋五兵衛

初瀬町

伊丹屋元三郎

北浜二丁目

高池屋三郎兵衛

尼崎町一丁目

井筒屋平次郎

今ばし一丁目

山本三太郎

而奉願上候、以上

集日 六日 十日 十六日
廿日 廿六日 廿日

足利式丁目北側ニ而

小松屋注助

酉九月より

(通信博物館所蔵文書)

二三 足利小松屋注助口演書

口演

各々様益御機嫌克被遊御座大悦至極奉存候、隨而私義江戸六斎飛脚渡世数年仕来候處、御鼻負を以日増に繁榮仕難有仕合奉存候、然ル処御懇意之御得意様方々今般別段被仰聞候ハ注文其外急キ荷物等之節、殊ニ寄延着ニ相成候儀茂間、有之、全等閑之儀ニ付以来急度相改、万端心附可致出精旨御諭被下置、誠ニ御実意思召之程有かたく幾重ニ茂御託奉申上、此度慥成者抱ひ入、六斎上下とも才料致させ、何様之御注文品にて茂日限通り延着無之様取斗ひ、急度御間ニ合せ、兎角御荷主様方御弁利專ニ心懸、是迄とハ違ひ別而出精可仕候ニ付、弥増御用向被仰付被下置候様仕度、偏ニ伏

○江戸油、御茶、小間もの類、下駄、傘、雪踏品、

右品物之儀ハ悉ク吟味仕入方念入、精々仕、別段下直ニ差上候間、外ハ江御引くらべ御用向奉希上候、以上

二四 定飛脚江戸屋仁三郎御年玉早見年代記書袋

御年玉

人家

早見年代記

日用

呉服町

定飛脚 江戸屋仁三郎

(慶応義塾図書館所蔵文書)

二五 堂嶋車屋源右衛門兵庫灘西国筋泉州筋飛脚休

日録

兵庫灘
西國筋
泉州筋
飛脚休日録

正月 元日 二日 三日 十日 十四日 十五日

十六日 廿五日

三月 朔日 二日 三日 十日

五月 三日 四日 五日

六月 廿四日 廿五日 晦日

七月 十二日 十三日 十四日 十五日 十六日

九月 七日 八日 九日

十月 大ノ月 廿九日 晦日

小ノ月 廿八日 廿九日

十一月 朔日

大ノ月 廿七日限り

小ノ月 廿六日限り

尤時限別仕立何時_{ニ而}茂差出し候間、不相替御用向被仰付可被下候、以上

大坂堂嶋大丸一丁西北側



車屋源右衛門

二六 堂嶋米市場堺屋喜平治西國筋毎日早飛脚出

付願書

西國筋毎日早飛脚出所

相場便り早状并ニ並便り共

此外日限、時限仕立、何時_{ニ而}茂相働御請負可仕候

米相場毎日早飛脚之儀は、是迄之適日々差立申候

一此度別段金銀荷物等は_{二七}四九出し

二日 四日 七日 九日 十二日 十四日

十七日 十九日 廿二日 廿四日 廿七日 廿九日

右定日之通り道中筋宰料付_{ニ而}賃銀下直_{ニ仕}、無滯差立申

候何卒不相変御用向被仰付候様奉希上候

大坂堂嶋米市場 堺屋喜平治

二七 定飛脚問屋六軒仲間仕法帳

(表紙)

仕法帳

(本文)

乍恐以書付奉願上候

一諸國飛脚 御用向旧来不相替被為 仰付、以御蔭家業
舁統仕冥加至極、重々難有仕合奉存候、隨而奉申上
候、近來都而飛脚 御用向日限及遲滯ニ御差支ニ相成、
毎度奉請 御察答甚心痛仕候、尤是迄種、手段仕候得
共、一舁海道筋駅、困窮之由ニ而、人馬繼立方自然と延
引ニ罷成難涉至極仕候、乍恐從

御公儀樣度、難有御憐愍之御手當ニ而、諸海道共割増

御免許被為 仰付候間 諸候樣御參勤御交代并諸

御往来者、人馬繼立方御差支無之候得共、乍恐私共、差
立候荷物迄者賄方行届兼候哉、且者駅ニ而壳荷物ニ
准シ取扱候故、毎々延着仕候儀茂有之、諸家樣御用向
御差支ニ相成、奉恐入候、尤私共取扱候荷物之儀者京都
大坂

御城内其外遠國 御役先御用并 御大小名樣方御知
行所御用不殘奉相動候間、御荷物之儀は至而御大切成
御用向ニ御座候得共、駅ニ而其趣意申立通行仕候而
者、却而かさつケ間鋪茂相聞可申哉と奉存候ニ付、夫
々少々宛之増錢等遣シ通行仕候處、前者奉申上候通諸
家樣御用向毎度及遲滯、誠家業舁等閑之勤方仕候樣御
高察之程、何共奉恐入候得共、私共難及自力奉存候間、
不得止事乍恐今般

御公儀樣江東海道筋人馬繼立方遲滯不仕候樣御触流
被成下置度段奉願上、猶亦私共家業舁取締之諸仕法箇
條相立、以來永久之規矩ニ相達置申度旨御訴詔仕候處
御吟味之上、以 御慈悲願之通被為 仰渡、重々難
有仕合奉存候、依之諸仕法左ニ奉申上候間、何卒御
聞濟被成下置候樣偏奉願上候

一貨銀之儀是迄高下不同之御請負仕候處、不正之段諸家
樣方々毎度奉請 御察答申訳難相立、奉恐入候之間、
此度貨銀可相成丈下直ニ積リ立、以來高下不同無之樣
平均之定貨銀ニ取極候間 御聞濟可被成下置候、猶亦

駄賃錢^并諸雜用共、荷物宰領之者^江其度毎ニ相渡遣シ候間、何卒以來御用之時、賃銀被^レ爲下置候様奉願上候事

一京都大坂^并東海道筋^江被^レ爲 仰付候御品；御届先^ニ而、賃銀請取候様被^レ爲 仰付候儀茂御座候處、是迄度；間違之筋有之候^而甚難渋仕候間、以來賃銀之儀御當地^ニ而直^レ被^レ爲下置候様奉願上候事

一飛脚御用向御請負仕候儀者、東海道筋京都大阪迄ニ限り候處、是迄諸国在^レ江入込候御用向之分届賃銀御當地^ニ而請取候様被^レ爲 仰付候儀茂御座候得共、諸国在^レ夥數儀故、里數等駈と難相分場所多分御座候^ニ付、以來東海道筋^ハ協道^江入込候處、亦者京都大坂^ハ在^レ江入込届賃銀難相分場所者、先方^ニ而御拂可被^レ成下候事

一御狀之類^江是迄御上書^ニ金子入と斗御記被^レ爲 仰付候儀茂御座候處、萬^一火盜水難之砌并金仕候儀茂御座候^ニ付、何卒以來者金子何程入と員數御書記被^レ爲 仰付可被^レ下候事

一金銀御狀之類者勿論其外不寄何御品、御封印之上被

爲 仰付被^レ下候、萬一御封印無之御品者以來御受負不奉申上候事

一爲御替手形入之儀、度、間違之筋御座候^而難渋仕候儀有之候^ニ付、以來定賃銀之外^ニ御増賃銀^ハ宛宛奉頂戴候事

一御大切之御品、無銘^ニ而被^レ爲 仰付候儀茂御座候處、荷物造り立候節、取扱方全ク行届兼長途馬荷之事故破損等出来仕、申訳難相立儀茂有之候^ニ付、以來御上書^ニ何御品^トと委數御書記被^レ爲 仰付可被^レ下候、若無銘^ニ而被^レ爲 仰付候得者、萬^一一無調法^ニ而破損仕候共并金不仕候事

一長尺嵩高物水氣塩物 手薄成箱物類、右御品；者以來都^ニ而定賃銀之外^ニ三割御増賃銀奉頂戴候事

一幣甲類塗物瀬戸物硝子類、右御品；之儀是迄於道中筋破損仕、申訳難相立難渋仕候^ニ付、以來馬便^ハ者御請負不奉申上候事

一飛脚出立刻限之儀是迄其及遅刻^ニ候處、東海道筋御関所^并川^ハ越立都合惡數罷成、自然と日限延引仕候

ニ付、以来夜五ツ時限ニ御用向為御持可被下候、右刻限過候^而為御持被下候分者、次之出日^江相廻し候間、當日出之間ニ合不申候事

一都御請買奉申上候御品、之儀、万一御届先^江不相届儀有之候^而、調被 仰付候儀茂御座候ハ、以来三ヶ年限ニ被 仰付可被下候、右年限過候^而者諸帳面取崩し候間、調之儀出来不仕候事

一去ル末年^ハ来ル辰年迄十ヶ年之間、東海道筋式割増被為 仰付候ニ付、右年限中御定賃銀之外ニ^ハ尅割宛御増銀奉頂戴候事

賃銀定

京都大坂迄

一四日限御仕立

賃銀四兩貳步

御状^ハ尅通^ル掛目三百目迄ニ限リ、其餘百目ニ付但 賃銀五匁之割、尤東海道筋^ニ被 仰付候節者、^ハ尅里ニ付賃銀貳匁之割合

同

一五日限御仕立

賃金三兩

御状^ハ尅通^ル掛目三百目迄ニ限リ、其餘百目ニ付賃銀五匁之割合、尤五日限仕立之儀は江州大津宿^ハ京都大坂迄ニ限リ、道中筋之儀は御請負不奉申上候

駿府表

一十八時限御仕立

賃金^ハ尅兩

但 御状^ハ尅通^ル掛目三百目迄ニ限、其餘百目ニ付賃銀五匁之割合

同

一二十四時限御仕立

賃金三步

但 右同断

同

一三十時限御仕立

賃金貳步貳朱

但 右同断 中山道^ハ京都大坂迄一六日限御仕立

賃金六兩

御状^ハ尅通^ル掛目三百目迄ニ限リ、其餘百目ニ付賃銀五匁之割合、尤道中^ニ被 仰付候節者、^ハ尅

但 里ニ付賃銀三匁之割合、都而御仕立飛脚之儀者

刻廻を以差立候間、出刻未ノ刻々亥ノ刻迄ニ相
限申候、且又御仕立之儀者道中割賃銀不奉頂戴
候

京都大坂井道中筋共

一六日限金百兩

賃銀五拾五匁

式朱判沓片々金沓兩迄

賃銀三匁五分

同沓兩余三兩迄

賃銀四匁

但 同三兩余五兩迄

賃銀四匁五分

同五兩余七兩迄

賃銀五匁

同七兩余拾兩迄

賃銀五匁五分

其餘拾兩以上百兩之割合、尤乱し金ニ而被
付被下候 仰

同

一同 丁銀沓貫目

賃銀五拾五匁

但 小玉銀五拾目迄賃銀三匁、其餘五百目迄百目
ニ付賃銀六匁之割、夫々以上貫目之割合

同

一同 御荷物沓貫目 賃銀五拾匁

但 掛目五百目迄御狀之割、夫々以上貫目之割合

同

一同 御狀箱沓封

賃銀五匁

但 掛目五拾目迄、其餘拾目ニ付賃銀五分之割合

同

一同 御狀沓通

賃銀貳匁

但 板挿御狀類共掛目三拾目迄、其餘拾目ニ付賃銀
五分之割合

京都大坂五六日割

一道中上ヶ御狀沓通

賃銀五匁

但 掛目三拾目迄、其餘拾目ニ付賃銀五分之割合

同

一同 御狀箱沓封

賃銀七匁五分

但 掛目五拾目迄、其餘拾目ニ付賃銀五分之割合、
尤六日限日割之外、道中上ヶ御請負不奉申上候

京都大坂迄

一七日限金百兩

賃銀四拾五匁

貳朱判沓片々金沓兩迄 質銀貳匁五分

一同 御狀沓通 質銀沓匁五分

同沓兩余三兩迄 質銀三匁

但 板挾御狀類共掛目三拾目迄、其餘拾目ニ付質銀

同三兩余五兩迄 質銀三匁五分

但 四分之割合

但 同五兩余七兩迄 質銀四匁

同 一八日限金百兩 質銀三拾五匁

同七兩余拾兩迄 質銀四匁五分

貳朱判沓片々金沓兩迄 質銀沓匁五分

其餘拾兩以上百兩之割合、尤乱し金ニ而被 仰

同沓兩余三兩迄 質銀貳匁

付可被下候

但 同三兩余五兩迄 質銀貳匁五分

同 丁銀沓貫目 質銀四拾五匁

但 同五兩余七兩迄 質銀三匁

但 小玉銀五拾目迄質銀貳匁五分、其餘五百目迄百
目ニ付質銀五匁之割、夫々以上貫目之割合

同 同七兩余拾兩迄 質銀三匁五分
其餘拾兩以上百兩之割合、尤乱し金ニ而被 仰

同

付可被下候

一同 御荷物沓貫目 質銀四拾匁

一同 丁銀沓貫目 質銀三拾五匁

但 掛目五百目迄御狀之割、夫々以上貫目之割合

但 小玉銀五拾目迄質銀貳匁、其餘五百目迄百目

一同 御狀箱沓封 質銀四匁

但 二付質銀四匁之割、夫々以上貫目之割合

但 掛目五拾目迄、其餘拾目ニ付質銀四分之割合

一同 御荷物沓貫目 質銀三拾匁

同

一同 御荷物沓貫目 質銀三拾匁

但 掛目五百目迄御狀之割合、夫^レ以上貫目之割合

貳朱判沓片^ノ沓兩迄 質銀沓^ノ匁

同

一同 御狀箱沓封

質銀三匁

但 同 沓兩余三兩迄 質銀沓^ノ匁貳分

但 掛目五拾目迄、其餘拾目ニ付質銀三分之割合

但 同 沓兩余五兩迄 質銀沓^ノ匁五分

同

一同 御狀沓通

質銀沓^ノ匁

同 同 沓兩余七兩迄 質銀貳匁

但 板挾御狀類共掛目三拾目迄、其餘拾目ニ付質銀三分之割合

同 同 其餘拾兩以上百兩之割合 質銀三匁

同

一十日限金百兩

質銀貳拾匁

一同 丁銀沓貫目 質銀拾五匁

金沓歩^ノ沓兩迄

質銀八分

但 小玉銀五拾目迄質銀沓^ノ匁、其餘五百目迄百目ニ付質銀貳匁之割、夫^レ以上貫目之割合 道中割増共 質金四兩沓歩

同 沓兩余三兩迄

質銀沓^ノ匁

一同 御荷物沓駄 錢沓貫四百文

但 同 沓兩余五兩迄

質銀沓^ノ匁貳分

同 沓兩余七兩迄

質銀沓^ノ匁四分

同 沓兩余拾兩迄

質銀貳匁

其餘拾兩以上百兩之割合

同 貫目之儀は造り立三拾六貫目限り、尤東海道筋^ニ被^レ仰付候節者、沓里ニ付、質銀貳匁貳分之割合

同

一同 貳朱判百兩

質銀三拾匁

一同 御荷物沓貫目 質銀拾五匁

同

一同 御狀箱沓封

質銀貳匁

但 掛目五拾目迄、其餘拾目付質銀沓分五厘之割

合

但 同三兩余五兩迄

質銀匁匁五分

同五兩余七兩迄

質銀匁匁八分

同

一同 御狀沓通

質銀六分

同

但 板挾御狀類共掛目三拾目迄、其餘拾目付質銀沓分五厘之割合

一同 丁銀沓貫目

質銀七匁

京都大坂并道中筋共

但 小玉銀五拾目迄質銀六分、其餘五百目迄百目付質銀沓匁之割合、夫以上貫目之割合

一並便金百兩

質銀拾匁匁

金沓歩沓兩迄

質銀六分

京都大坂迄

道中割増共

同沓兩余三兩迄

質銀七分

一同 御荷物沓駄

質金三兩沓歩

但 同三兩余五兩迄

質銀八分

錢沓貫四百文

同五兩余七兩迄

質銀匁匁

同七兩余拾兩迄

質銀匁匁沓分

其餘兩以上百兩之割合

京都大坂并道中筋共

但 貫目之儀者造り立三拾六貫目限り、尤東海道筋被仰付候節者沓里付質銀沓匁七分之割合

同

一同 貳朱判百兩

質銀貳拾貳匁

一同 御荷物貫目

質銀七匁五分

掛目五百目迄御狀之割、夫以上貫目之割合、

但 尤勢州津、松坂、山田迄之御荷物者掛目_二沓貫目_一

付賃銀五分御増奉頂戴候

一同 御状沓通

賃銀三匁

同

一同 御状箱沓封

賃銀沓匁

一同 御状沓通

賃銀四匁

但 掛目五拾目迄、其餘拾目_二付賃銀沓分之割合_一

但 右同断

同

一同 御状沓通

賃銀三分

一六日限御状沓通

賃銀六匁

但 板挿御状類共掛目三拾目迄、其餘拾目_二付賃銀沓分之割合_一

但 右同断

同山田迄

京都大坂迄

一同 御状沓通

賃銀拾匁

一歩行御荷物沓人持

賃銀百匁

但 右同断

但 掛目五貫目限り、其餘沓貫目_二付賃銀拾匁之割合_一

同津迄

合、尤道中割増賃銀不奉頂戴候

一八日限御状沓通

賃銀貳匁五分

勢州神戸迄

但 板挿御状類共掛目三拾目迄、其餘拾目_二付賃銀沓分之割合_一

一五日限御状沓通

賃銀貳匁五分

四分之割合

但 板挿御状類共掛目三拾目迄、其餘拾目_二付賃銀沓分之割合_一

同松坂迄

同白子迄

一同 御状沓通

賃銀貳匁五分

同白子迄

但 右同断

同山田迄

一同 御状老通

賃銀三匁五分

但 右同断

都而勢州行御状箱類之儀者、賃銀壹匁五分御増奉頂戴候、尤掛目五拾目迄、其餘拾目ニ付賃銀五分之割合

上方筋早便並飛脚定日

朔 日 二 日 四 日 六 日 八 日 九 日

毎月十一日 十二日 十四日 十六日 十八日 十九日

廿一日 廿二日 廿四日 廿六日 廿八日 廿九日

正月者二日ヨ差立、十六日相休、十七日早便並

便共差立申候、

五月者は迄六日相休、七日ニ差立候処、以来六

日ニ早便並便共差立申候、

七月者十二日早便斗リ差立、十六日相休、十七

日早便並便共差立申候

上方筋盆前着之並便者、六月廿九日出限ニ御座

候

但 九月者九日相休、十日早便並便共差立申候

十二月者並便廿四日限リニ相休、上方筋年内着

之並便者十六日出限リ、早便之儀小ノ月廿八日

出限ニ差立、尤毎月三五七十之日休日之定ニ御

座候得共、御用多之節者臨時ニ差立候儀茂御座

候

右者今般

御公儀様江家業跡諸仕法并賃銀等之儀奉願上候處、以御

慈悲願之通被為 仰渡候間、此段 御聞濟被成下置、以

来者前書之趣を以下相替御用向被為 仰付被下置候様、

偏奉願上候、以上

定飛脚問屋

文化三丙寅年四月日

六軒仲間

(北九州市立歴史博物館所藏豊前国小倉中原文書)

二八 江戸定飛脚問屋東海道筋御仕立賃銀増願口上

書

乍恐以口上書奉願上候

一東海道筋近年追々割増被仰出候上、尚又諸色未曾有之

高直相成候付、都而入用一倍余相掛難渋仕候付、追

而諸色下直相成候迄之内、左之通御増賃奉頂戴候

一三日半限御仕立

賃銀拾壹兩

但御狀尅通分掛目三百目限、其余百目付賃銀廿

匁割

一四日限御仕立

賃金八兩

但右同斷

一五日限御仕立

賃金六兩

但御狀尅通分掛目三百目限、其余百目付賃銀拾

五匁割

一六日限御仕立

賃金四兩

但右同斷

金壹兩付相庭六拾四匁替

右之通御聞濟之上、御用向被仰付被下候様奉願上候、以

上

寅五月

江戸定飛脚

仲間 印

(印「江戸／定飛脚仲間／三度」)

二九 江戸出火

江戸出火

六月二日丑中刻、飯倉五丁目出火、南大風、同二丁目迄東側不残、壹丁目へ兩側、夫々西久保八幡前、大當寺門前、神谷町残寸焼、富山町少々、ふき屋町、車坂町、新下谷町不残、夫々虎御門外金ひら様御類焼、御旗本方数軒、翌三日未下刻火鎮候

亥六月八日

印

印

(印「大①阪／定飛脚／江戸屋平右衛門」、「江戸／定飛脚仲間／三度」)

三〇 江戸出火

江戸出火

九月四日夜丑刻馬喰町壹丁目、西風強、同二丁目、小

伝馬町三丁目南側、通油町北側、塩町、横山町、三丁目迄
不残、二丁目少々残、久松町、橋町、三丁目、村松町、
同明町、元失之倉、大川端、津輕様不残焼失、翌牛刻火
鎮申候

亥九月十日

印

(印「江戸／定飛脚仲間／三度」)

(日本通運株式会社資料室所蔵文書)

三一 定飛脚問屋島屋佐右衛門箱館定飛脚賃附

(1)

當七月四日ヨリ飛脚差立申候

(2)

箱館定飛脚賃附

(3)

毎月四ノ日 九ノ日

六斎飛脚出日

(4)

小判

貳分 金貨

貳朱

百兩 三拾匁

壹兩 貳百八十貳文

三兩 三百六十七文

五兩 四百六十七文

七兩 五百五十七文

拾兩 六百四十文

拾五兩 七百三十六文

廿兩 八百四十六文

廿五兩 九百七十五文

三十兩 壹千百五十四文

右之餘は百兩之割

(5)

壹分

壹朱 銀貨

百兩 四拾五匁

壹兩 三百七十貳文

三兩 四百九十四文
 五兩 六百十七文
 七兩 七百四十文
 拾兩 八百五十文
 拾五兩 九百八拾文
 廿兩 壹ノ百廿七文
 廿五兩 壹ノ三百五十四文
 三十兩 壹ノ六百廿四文
 右之餘は百兩之割

(6)

荷物御状之實

壹貫目 拾三匁
 百目 貳百九十七文
 貳百目 四百十六文
 三百目 五百六十文
 四百目 七百七文
 五百目 八百四十四文
 六百目 九百七十

(破損)

翻刻飛脚關係摺物史料 (一) (藤村)

七百目 壹ノ百廿文 (破損)
 八百目 壹ノ貳百六十 (破損)
 御状壹通 (読不明) (破損)
 百〇拾〇 (破損)

(7)

但十月ノ三月迄

雪中ニ付荷物壹貫目二つ〇式割五分増し (破損)

(8)

但し御屋敷様方は右貨銀之上江壹割増し

(9)

奥州街道筋 仙台 一ノ関 南部 盛岡 野辺地 津
 輕 青森 三馬屋 弘前 松前 福山 江差 箱館迄

右道中筋宿々最寄在、迄飛脚并理御屈方仕候

右飛脚之外、仙台迄日光道中筋毎月一五八〇日 (破損)

水戸街道筋毎月二八ノ日

右之通飛脚差立申候間、不相替御用向被 仰付候様奉願
 上候、以上 定飛脚問屋

江戸瀬戸物町 島屋佐右衛門

(出雲国松江、原家文書)

三二 東国定飛脚問屋会所賃銀等口上書

(1)

乍憚口上

一

私共儀

東国筋飛脚相始、式百有余年御弁利仕来、御蔭を以今

日迄相續仕候段、難有仕合奉存候、然ル所今般

御上様御弁利被為遊候段、委細承知仕奉恐縮候、就右

家業衰亡之義と憂苦仕候、何卒右御便漏候飛脚御用

向御請負仕、多人數之者生育仕度奉存候、前頭之始末

御憐察被成下、往古御弁利仕来候御因縁ヲ以、御救

助と被思召、不相變御用向被 仰付候様歎願候、以上

但、仲間合併仕、賃銀下直仕法改正、左奉申上候

(2)

一御状沓通

差込急便

賃金貳朱

掛目五匁迄、其余五匁付貳朱替

東京表正四五日目着

定便

同 三匁

掛目十匁迄、其余十匁付貳匁替

同

十二日目着

(3)

一別仕立御状沓通付

正三日限

賃金廿匁兩

正三日半限

同 拾八兩

正四日限

同 拾四兩

但掛目三百目迄、其余百目付貳步替

正五日限

同 八兩

正六日限

同 五兩

但掛目三百目迄、其余百目付沓分貳朱替

(4)

一御荷物沓實目

定便

同 三拾五匁

但し百目以下御状之割

永尺、嵩物、水気、塩気、手薄之品、都而定賃之外三

割御増奉申請候

(5)

一金百兩_ニ付

差込急便

同六拾目

但五兩迄七匁五分、其余老兩_ニ付七分替

右ハ御見出し_ニ而被仰付可被下候

定便

同廿五匁

但五兩迄五匁、其余老兩_ニ付四分替

(6)

一勢州、尾州路、三州岡崎宿迄

差込急便

同五百文

掛目拾匁迄、其余拾匁_ニ付百文替

定便

同貳百文

掛目拾匁迄、其余拾匁_ニ付五百文替

一定便荷物老貫目

同貳拾三匁

一同金百兩_ニ付

同貳拾式匁

但五兩迄三匁、其余老兩_ニ付貳分八リ替

(7)

一手形入之義ハ御日限_ニ不抱、定實之外_立

金高百兩_ニ付

同五匁替

同 百兩以下老兩_ニ付

七リ替

右割合を以奉申請候

(8)

一御拂之節、金老兩_ニ付六拾目立

端錢老匁_ニ付、百七拾文之割合ヲ以御拂奉申請候

(9)

一金札_并手形入上封_立御金高御記無之分者、万一故障出

来候共、弁金不仕候

(10)

一金札之義者、板挾_ニ被成下_并雨露之御手當奉願上候

(11)

右毎月二ノ日、四ノ日、六ノ日、八ノ日、十ノ日、酉ノ

刻限飛脚差立方仕候

(12)

平野橋東_立入

東国定飛脚問屋

午ノ十一月

会所印

(印「定飛脚」)

(13)

蒸氣船便御状_二沓通

賃金貳朱

六日目届

但掛目卅目迄

右者毎月四九ノ日集、一六出帆仕候

但、風雨御座候節は延日御断奉申上候

三三 大阪諸国陸運元会社、松江諸国陸運会社、大阪

松江間物貨通送賃錢表

(1)

從大阪至出雲

物貨通送賃錢表

自出雲至大阪

(2)

量目 百目以下百目迄

六錢

百目以上三百目迄

十錢

五百目以上沓貫目迄百目ニ附

三錢

沓貫目以上三貫目迄百目ニ付 二錢六厘

三貫目以上十貫目迄沓貫目ニ付 貳十錢

十貫目沓箇ニ付 金沓兩四十錢

造立十貫目ニ付 金沓兩二十錢

三箇以上十貫目ニ付 金沓円

(3)

通貨通送ハ各地一般賃錢表里程ニ照準シ可申事

(4)

物品総陸地廻シ之分、同里程ニ准シ通送可仕事

(5)

長尺物、嵩物、濡滋物、箱物、塩氣物、火薬物、瓶物、目輕物、其他金高之品等、相応之増賃錢申受候事

(6)

下り荷物岡山井ニ尾道共、蒸氣船積之分ハ、沓箇ニ付十錢

ヅ、増賃申受候事

(7)

運輸賃錢之儀ハ都而現金ニ御拂可被下候、無餘儀先拂之分ハ定賃之沓割増申受候事

(8)

雪中ハ荷物背負ニ付、定賃之ニ割増申受候支

(9)

差立定日 大阪ヨリ一六三八日 松江ヨリ三ノ日

(10)

請取刻限、午後第四字□、其後之分ハ次便ニ相廻シ可申候支

(11)

各地へ出張会社相設置候間、最寄同社立御差立可被下候

(12)

明治六年

船越町

大阪

松屋町東

諸国陸運元会社

西十一月

雲州松江天神町

諸国陸運会社

(奈良県桜井市船谷家文書)

三四 南都組合飛脚中荷物賃錢ニ付口上書

乍憚口上

益御勇健ニ被遊御座奉珍寿候、然ハ私共百性作間ニ飛脚

商賣渡世ニ仕居候處、道中筋人馬割増等多分入用相掛リ

迷惑仕候、依之自然相統出来兼、此段歎ケ數奉存候、然

ニ相場賃錢之儀近頃乱ニ相成候付、甚難渋仕候、何卒月百

文ツ、賃錢申受度、此段御承引可被成下候、尤荷物書状

と賃錢左ニ奉申上候

荷物賃錢之覺

一 疋賃目ニ付 六分

一 五百目以上 五分五厘

一 五百目以下 五分

一 夜飛脚持荷物疋賃ニ付 疋毎

一 金銀手形入書状 六十四文

一 店走り書状 六拾四文

一 判取り状 四十八文

一 並狀 十六文

但シ大封者見斗、尤場所ニテ而賃増申受候

右之通御座候間、此段宜敷奉願上候、以上

天保八酉七月改

南都組合

御得意様中

飛脚仲間中

(大阪市立大学附属図書館所蔵文書)

三五 堂嶋柏屋藤松令兵庫灘西国筋泉播州米飛脚出

所

(1)

兵庫灘

堂嶋渡辺橋西へ入

令西国筋 米飛脚出所

柏屋藤松

泉播州

(2)

備前 岡山 片上 金岡 西大寺 其外所々

備中 撫川 庭瀬 板倉 宮内 倉鋪 妹尾 早嶋

玉嶋 笠岡

備後 福山 鞆津 尾道 三原

芸州 広嶋 海田 大竹 竹原 宮嶋

防州 岩国 関戸 徳山 宮市 山口 三田尻

長州 萩 下の関

豊前 小倉 中津

筑前 福岡 博多

筑後 久留米 柳川

肥前 佐賀

肥後 熊本

讃州 高松 丸亀 金毘羅

豫州 今治 小松 松山 大洲 宇和島

(3)

兵庫灘早狀出刻定

寄附便リ 朝五ツ時 言合便リ 五ツ半時

正引便リ 四ツ半時 大引便リ 八ツ時

同並便り出刻 九ツ半時

(4)

播州路 明石 二子 二見 別府 本庄 高砂 大塩

的形 加古川 姫路 銚万 網干 室津 赤

穂 龍野 完栗 三木 吉川 東條 市場

小野 社 古瀬 宿村 大門 滝野 高郡

北条 神東 神西 生野 村々 浦々

(5)

年中休日定

正月 四日始り 十五日 十六日

三月 二日 三日 十日

五月 四日 五日

六月 廿五日

七月 十三日 十四日 十五日 十六日

九月 八日 九日

十月 晦日

十一月 朔日

十二月 小廿七日限 大廿八日限

(6)

米相庭毎日早飛脚差立申候、尤御荷物目方割合ニ而差出申候、諸方臨時日限時限仕立何時ニ而も指出し申候、不相替御用向奉希上候、以上

(大阪市藪内家文書)

三六 三度飛脚所尾州宮宿貝谷権左衛門江戸井道中

筋早飛脚出日

(1)

丙辰年

(2)

江戸井道中筋早飛脚出日

(3)

正 四日 六日 七日 九日 十日 十三日 十四日

日 十六日 十七日 十九日 廿日 廿三日

廿四日 廿六日 廿七日 廿九日 晦日

二 三日 四日 六日 七日 九日 十日 十三日

十四日 十六日 十七日 十九日 廿日 廿三日

日 廿四日 廿六日 廿七日 廿九日

三 朔日 三日 四日 六日 七日 九日 十日

十三日 十四日 十六日 十七日 十九日 廿日

日 廿三日 廿四日 廿六日 廿七日 廿九日

四 朔日 三日 四日 六日 七日 九日 十日

十三日 十四日 十六日 十七日 十九日 廿日

日 廿三日 廿四日 廿六日 廿七日 廿九日

晦日

五 三日 四日 六日 七日 九日 十日 十三日

十四日 十六日 十七日 十九日 廿日 廿三日

廿四日 廿六日 廿七日 廿九日

六 朔日 三日 四日 六日 七日 九日 十日

十三日 十四日 十六日 十七日 十九日 廿

日 廿三日 廿四日 廿六日 廿七日 廿九日

晦日

七 三日 四日 六日 七日 九日 十日 十三日

十四日 十九日 廿日 廿三日 廿四日 廿六

日 廿七日 廿九日

八 朔日 三日 四日 六日 七日 九日 十日

十三日 十四日 十六日 十七日 十九日 廿

日 廿三日 廿四日 廿六日 廿七日 廿九日

晦日

九 三日 四日 六日 七日 九日 十日 十三日

十四日 十六日 十七日 十九日 廿日 廿三

日 廿四日 廿六日 廿七日 廿九日 晦日

十 三日 四日 六日 七日 九日 十日 十三日

十四日 十六日 十七日 十九日 廿日 廿三

日 廿四日 廿六日 廿七日 廿九日 晦日

十一 朔日 三日 四日 六日 七日 九日 十日

十三日 十四日 十六日 十七日 十九日

廿日 廿三日 廿四日 廿六日 廿七日 廿九

日

十二 朔日 三日 四日 六日 七日 九日 十日

十三日 十四日 十六日 十七日 十九日 廿

日 廿三日 廿四日 廿六日 廿七日

(4)

右当日暮合迄御差出し可被下候

(5)

並便毎月九斎

臨時間便早並共差立

時限仕立、晝夜何時ニても即刻差立申候事

(6)

尾州宮宿

三度飛脚所

貝谷權左衛門

名古屋伝馬町四丁目

同 出店

出可申候

(4)

賃銀定

大坂行

書狀 一匁五分

(三原市立図書館所蔵備後国御調郡三原西町川口家文書)

三七 大阪月六度定飛脚所

(1、懸け看板の図)

京都 江戸 東海道

(墨書) 「三原西町」

大阪月六度定飛脚所

紀州 北国 西国筋

(墨書) 「さわや与兵衛」

(2)

出日 四日 九日 十四日 十九日 廿四日 廿九日

(3)

口上

一此度毎月六度定飛脚右かんはん通指出候間、金銀荷物御狀其外何によらず無間違相届可申候、何卒御用向之節被仰聞候様奉希上候、右之外仕立飛脚何時ニ而も指

同

同

同

金子 一兩ニ付五分、但シ五兩マテ

銀子 一メ目ニ付一リ一分五リ

荷物 目方一メ目ニ付一リ一分二リ

(5)

仲間、此外所々取次所有

大坂堂嶋 美濃屋太郎兵衛

兵庫 庫 たはこ屋小兵衛

明石 松葉屋長 藏

備前岡山 成物屋平十郎

備中高屋 備後屋幸十郎

備後福山

松田屋太兵衛

同 尾道

三好屋藤 助

廣 嶋

岩国屋兵左衛門

